

94-294

普通學表解叢書

小島 穂 著

東京

國文學史表解

會社資六盟館

明治 39 7 13

內交

例言

- 一、およそ、物の要領を得ることは百般にわたりて、必須なることながら、特に、斯學に於て、然りとあす、これ、この表解を公にする所以なり。學者、宜しく之を袖裡に納めてその便益を知れ。
- 二、本書は、國文學史を、最速成に、且明晰に、理解し、記憶し、應用し得らるゝを目的とし記述したるものにして、中學・師範學生、及高等學校入學・文部省教員檢定受験者の參考用あり。
- 三、本書を參考する者は、まづ、一部の國文學史を對照、通讀したる後においてすべし。
- 四、卷尾に餘白を存したるは、解説の遺漏、及教師の講義要領等を記入せ

しむる著者の注意なり

明治三十九年六月

著者識

國文學史表解

目次

總論

一	國文學史の目的	一
二	文學史敘述方法	二
三	國文學の種類	三
四	國文學の三大傾向	三
五	國文學の特質	四
六	各時代の略説	六
第一編 奈良朝以前の文學		
一	太古の歌謠	八

第二編 奈良朝時代の文學

二	太古の傳説	九
三	祝祠壽詞	一〇
四	漢學	一一
五	詩	一一
第二編 奈良朝時代の文學		
一	歌の發達	一二
二	柿本人麿	一二
三	山部赤人	一三
四	山上憶良	一三
五	萬葉集	一四
六	佛教の影響	一五
七	漢文の影響	一五
八	當時の漢文	一六

九 古事記.....二七

一〇 風土記.....二七

一一 氏文.....二七

一二 宣命.....一八

第三編 平安朝時代の文學

一 總說.....一九

一、平安朝第一期

二 詩文.....二〇

三 假名.....二一

四 神樂・催馬樂.....二一

五 歌.....二二

六 物語.....二三

二、平安朝第二期

七 韻文散文.....二四

八 紀貫之.....二四

九 三代集.....二五

一〇 土佐日記.....二六

一一 歌序.....二六

一二 大和物語.....二七

一三 落窪物語.....二七

一四 とりかへばや物語.....二八

一五 各種の物語.....二八

一六 宇津保物語.....二九

一七 紫式部.....二九

一八 源氏物語.....三〇

一九 紫式部日記.....三一

二〇 清少納言.....三一

二一 枕草子.....三一

二二 狹衣物語.....三一

二三 和泉式部日記.....三一

二四 蜻蛉日記.....三一

二五 唐物語.....三一

二六 榮華物語.....三三

二七 大鏡.....三四

三、平安朝第三期

二八 今昔物語附物語類別.....三四

二九 著作者一變.....三五

三〇 讃岐血侍日記.....三五

三一 更科日記.....三五

三二 歌集.....三六

三三 歌合及歌學.....三七

三四 今様及朗詠.....三八

第四編 鎌倉室町幕府時代の文學

一 總說.....三九

一、鎌倉時代

二 軍記物語.....四〇

三 保元平治物語.....四一

四 平家物語.....四一

五 源平盛衰記.....四一

六 太平記.....四二

七 平家琵琶.....四二

八 方丈記……………四三

九 西行法師……………四四

一〇 十六夜日記……………四四

一一 海道記……………四五

一二 東關記行……………四五

一三 辨内侍日記……………四五

一四 中務内侍日記……………四五

一五 水鏡……………四六

一六 增鏡……………四六

一七 今鏡……………四七

一八 神皇正統記……………四七

一九 十訓抄、古今著聞集、宇治拾遺物語……………四七

二〇 徒然草……………四八

二一 佛者の法語類……………四九

二二 新古今和歌集……………五〇

二三 和歌の門閥……………五一

二四 勅撰歌集……………五二

二五 新葉和歌集……………五二

二六 有名なる家集……………五三

一、足利時代

二七 謡曲……………五四

二八 能……………五五

二九 狂言……………五五

三〇 狂言記……………五六

三一 狂言の謡曲との關係……………五六

第五編 江戸幕府時代

一 総説……………六一

一、徳川時代

二 藤原惺窩……………六二

三 林羅山……………六二

四 林鷲峰……………六三

三二 能と芝居との關係……………五七

三三 御伽草子……………五七

三四 紀行類……………五八

三五 各種物語……………五八

三六 歌……………五九

三七 連歌……………五九

三八 發句……………六〇

五 中江藤樹……………六三

六 山崎闇齋……………六三

七 伊藤仁齋……………六四

八 物徂徠……………六四

九 木下順庵……………六四

一〇 當時の儒學……………六五

一一 松永貞徳……………六五

一二 北村季吟……………六五

一三 新井白石……………六六

一四 室 鳩巢……………六六

一五 貝原益軒……………六六

一六 戸田茂睡……………六七

一七 下河邊長流……………六七

第六編 現代文學

四四	山東京傳	八三
四五	瀧澤馬琴	八四
四六	滑稽小說	八五
四七	洒落本	八五
四八	合卷物	八六
一	總說	八七
二	新聞雜誌	八七
三	俳句	八八
四	和歌	八八
五	新體詩	八八
六	小說	八九
七	戲曲脚本	八九

國文學史表解終

一八	僧契沖	六八
一九	荷田春滿	六八
二〇	徳川光圀	六八
二一	松尾芭蕉	六九
二二	井原西鶴	七一
二三	近松門左衛門	七二
二四	戲曲作者	七三
二五	浮世草子	七四
二六	賀茂真淵	七五
二七	村田春海	七五
二八	橋千蔭	七六
二九	本居宣長	七六
三〇	伴信友	七七

三一	平田篤胤	七七
三二	小澤蘆庵	七八
三三	伴蒿溪	七八
三四	香川景樹	七八
三五	狂文狂歌發達	七九
三六	四方赤良	七九
三七	宿屋飯盛	八〇
三八	谷口蕪村	八〇
三九	川柳	八一
四〇	小說	八一
四一	平賀源內	八二
四二	建部綾足	八二
四三	上田秋成	八二

國文學史表解

總論

1. 歴史的

國民の氣風、道德、思想、感情、等の文學に反映せるを歴史的に研究するなり。
國民の心性生活を知らざるを得、政治史にては唯外形の知らるゝのみ。

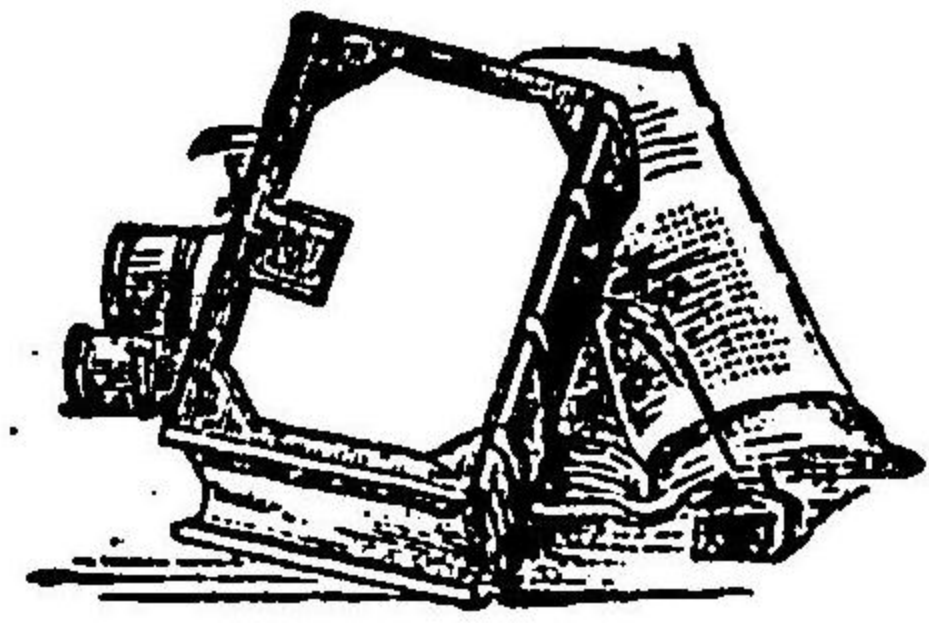
國民精神の特質を明にすると共に國語の性質を知るに在り。

後來の文學發達を圖るに必要なり。

新作は必古來の文體及趣向等を顧みざるべからず。

一、國文學史の目的

2. 文學發達上



小島 芦穂 著

二、文學史 敘述方法

- 3. 時代文學
 - 一、各時代に發生せる文學の起因、結果、影響を知るに在り。
 - 二、其作者及作者の嗜好等を精細に研究す。
- 4. 外國思想等
 - 一、國文學には外國思想の影響殊に漢學、佛教は其想のみならず其語も語法も混じれば其程度、變遷、感化等を知るに在り。
- 1. ……事實を主とする者あり。
- 2. ……評論を主とする者あり。
- 3. ……文體を主として論ずる者あり。
- 4. ……思想を主とする者あり。
- 5. ……著作物の種類によりて敘述する者あり。
- 6. ……文學者を主として敘述する者あり。——其文學中には自ら作者の人物顯はるるものなれば其人物の境遇、變遷等は著く文學に影響する故なり。

三、國文學 種類

- 1. 韻文
 - 一、主觀的………敘情詩。
 - 1. 叙景詩。
 - 二、客觀的
 - ロ、叙事詩(我國に西洋の如き叙事詩はなし)
 - ハ、劇詩。
- 2. 散文
 - 一、主觀的………敘情文、小説等。
 - 1. 超自然的小説。
 - 二、客觀的
 - ロ、寫實的小説。

四、國文學の 三大傾向

- 1. ……進歩發達は常に外國思想の影響なること………
德川時代漢學の隆盛が影響して國語研究勃興したる類。
- 2. ……趣味より興味に走らむとする傾あり………
和歌に對して狂歌盛となり俳句に伴ひ狂句興る類。
- 3. ……内容よりも形式を重んじて拘泥する傾あり………
古今和歌集以後皆これに倣へる類。

五、國特文學質學

1. 外形

- 一、優美……てはをば多く母韻の多き語なれば語呂滑りの致す所。
- 二、言掛、縁語等の言語的遊戯をなすに適す。
- 三、國文の終止は形容詞、動詞、助動詞の者多し……力弱き原因。
- 四、女子の文學に適す……平安朝女流作家の多きは時代の影響なれども。

2. 内容

容

- 一、細美にして雄大の風尠し……嶋國の小天地しかも氣候溫和激變なき影響。
- 二、文勢悠々として迫らざるも單刀直入底の力缺く。
- 三、深遠なる哲理等の大思想を現はしたるもの殆無し。
- 四、外國思想の混和したるもの頗多し。

1. 奈良以前朝

- 一、太古より大化改新まで凡千三百年間の文學萌芽時代を云ふ。
- 二、純粹の日本風多し、國字なし。韻文時代といふべし。
- 三、簡古、文學上の價值は少きも歴史的價值は頗大なり。
- 四、口傳の歌謠傳説……古事記、日本書記に載る。

2. 奈良時代朝

- 一、大化改新より平安奠都まで凡百年間の文學勃興時代なり。
- 二、多少儒佛の思想交るも大體に於ては神代の思想を國語にて書き顯はす。
- 三、漢文を自由に書ける結果、種々の歴史、風土記等をも編纂す。
- 四、散文にては祝詞、壽詞、宣命。韻文にては万葉集。

3. 平安時代朝

- 一、平安奠都より鎌倉幕府創立まで凡四百年間の文學隆盛時代なり。
- 二、騎奢閑雅の時代なれば文學も纖麗麗美を極む。
- 三、假名發達して物語、日記、歴史、歌集、等時期の短きに比して産物頗多し。
- 四、男子は多く漢文學を修め漢文を書き、女流は和文に妙を極む。
- 五、佛教の影響著し。
- 六、後世の摸範文學にて國文學の源流たり。

六、各略時說代

4. 鎌倉室町幕府時代

- 一、 鎌倉幕府創立より江戸幕府創立まで凡四百年間の文學衰頹時代なり。
- 二、 文學、僧に歸して悲憤幽鬱隱遁的となる。
- 三、 漢文くづれて國文に混じ和漢混淆文發達す。
- 四、 文學上流より下流に移る兆見ゆ。
- 五、 朝廷の衰頹と共に文學極衰して創作尠し。
- 六、 古文學の保守摸倣を主とす。
- 七、 物語に教訓を含む。
- 八、 散文にては市記物語類、十六夜日記、方丈記、徒然草、十訓抄、謡曲、御伽草子等。韻文にては新古今集以下の勅撰集、連歌及發句等なり。

散文にては伊勢物語、竹取物語、落窪物語、源氏物語、枕草子、土佐日記、榮華物語、大鏡等。韻文にては古今集後撰集、拾遺集及神樂、催馬樂、今様歌、等。

5. 江戸時代幕府

6. 現代

- 一、 江戸幕府創立より明治維新まで凡二百五十年間の文學復活時代なり。
- 二、 儒教を中心とすれど西洋思想も少しく混ず。
- 三、 平民文學盛に起る。
- 四、 上下の階級劃然たる時代なれば文學も上流下流自ら嗜好を異にす。
- 五、 文學者あらゆる階級より輩出したれば其種類も頗多し。
- 六、 散文にては普通文の基礎をなす和漢混淆文類、戯曲、小説等韻文にては和歌、俳句の復古刷新せる類頗る多く出づ。
- 一、 明治の現代をいふ。
- 二、 王政一新國民一致團結せる時代なれば國民文學の出來べき時代なり。
- 三、 印刷術進歩しなれば大に文學の發達を助く。
- 四、 文學の規模宏大なり。

一五、外國文學の翻譯盛に行はる。
六、小説、和歌、戯曲、改良の聲高し。

第一編 奈良朝以前文學

一、太古の歌謠

1. ……神代及歴代天皇皇后の歌は日本書記古事記によりて傳はる二百首將あり。
2. ……かゝる古き歌謠は世界の文學にも少なけれは歴史的價值頗多し。
八雲起歌は和歌の濫觴といひ傳ふれど後世三十一字に改めたるなるべしと橘守部説けり。
3. ……
4. 種類：酒宴歌、壽頌歌、吊慰歌、國見歌、競婦歌、童謠あれど多くは戀歌なり。
一、單純にて景色を述ぶる者多し。二、譬喩を多く用ふれど規模小なり。三、花月をよめるもの無し。後最多く之を咏むは漢文學の影響。一定せざるも五七の交錯なり偶六字句、八字句等あるは五七の遊離せるもの。
5. 思想
6. 形式

二、太古の傳説

1. ……この發生は太古自然の現象にて各國皆然り。
2. ……文字無ければ書かれたる無く語部の語り繼ぎによりて傳はりしが漢學渡來後古事記風土記日本書記の文となりて後世之を知ることを得。
3. ……思想幼稚なれども國文學の萌芽を含む。
4. ……山川草木鳥獸を擬人とし無生物を有生物となす。
5. ……後世の物語小説は此傳説の發達したるものなれば歴史的價值甚多し。
6. ……その主なる者饒河大蛇譚、稻羽素戔蕨譚(以上古事記)浦嶋譚(日本書記)羽衣譚、乙女松原譚(風土記)
7. 裝飾：一、繰返法(同韻或同句或同語)これは西洋の古歌にもあり 二、對句 支那も此法を徴 三、枕詞 四、かけ詞(この二法は國學の特色なり)
8. 註釋：僧契沖著厚顔抄、荒木田久老著日本記歌廼解、橘守部著稜威言別
1. ……祝詞、壽詞は歌謠と共に太古の文學にて散文といふよりも韻文といふべし。

三、祝詞壽詞

- 3. 思想：其規模高大にして莊重森嚴雄大、歌きは性質根本より別なり。
- 4. 形式：長短句錯綜なれど口調に意を用ひらる。
- 5. 裝飾：對語對句を用ふ枕詞譬喩少なくかけ詞なし、是性質上莊嚴を要すれば之を思みたるなり。
- 6. ……其主なるもの大祝詞、大殿祭、御門祭、出雲國造神壽詞、中臣壽詞。
- 7. 註釋：賀茂直淵著祝詞考、本居宣長著大祝詞後釋、出雲國造神壽詞後釋、藤井高尚著出雲國造神壽詞後々釋、鈴木重胤著祝詞講義、久保季茲著祝詞略解

- 1. ……史に見われど早く渡來す應神朝稚郎子學び履仲朝史官を置くされど阿直岐王仁等歸化人の子孫が世々文章を司ることを見れば普及すること難かりしなり。
- 2. ……漢字の吳音は漢代古音の南朝に存したるが傳はれるにて其南朝が古の吳に都し居りたれば吳音と稱す。漢音の我國に入れるは推古朝隋と交通後なりと云ふ。

四、漢學

- 3. ……佛敎渡來してより其經を讀むため漢文の必要起りて研究一層盛となり且普及す。
- 4. ……聖德太子が漢文にて憲法十七條、勝曼經義疏を書くまでに進歩す。
- 5. ……大化の改新によりて漢學一層必要となる、かゝる社會上の大變動は文學上にも大變化を與ふ又佛敎盛に行はるゝ爲思想界も大に變化したり。
- 6. ……當時の漢文は法隆寺佛背に彫刻せる銘及伊豫道後溫泉古碑に残る。
- 1. ……漢學と共に詩作はじまり、朝野の學士高僧皆唱和す。
- 2. ……當時唐の文學隆盛に際すれば我國の文學も之に倣ひて進歩す。
- 3. ……其作は天平勝寶三年に成れる懷風藻によりて傳はる。

五、詩

第二編 奈良朝時代文學

- 1. ……聖德太子以來進歩したる漢學の影響は遂に和歌の發達を促し大化以後の新體歌を起して奈良朝隆盛の先驅をなす。

一、歌の發達

三、柿本人麿

2. 上代は身分高き人の歌なられば傳はらざりしもこの時代より歌人貴げれて低きも世に傳唱せらるることなれり。

1. 文學發展期に於ける先達者なり。

2. 其傳記

孝昭帝子天足彦國押人命の裔天智初年に生る二十六七より新田部皇子の舍人となり其薨後高市皇子に仕ふ又其薨後は筑紫に使し隱岐にも渡りしが石見國府屬官にて和銅二年没す年四十八九。

3. 其歌

一、雄渾壯大人情を歌ふに長ず。二、思想は漢學の影響見えざるも形式題目は詩賦に倣ふ。三、形式は上代の歌より頗る大なりこれ思想形式ともに大なる祝詞より脱化したればなり。四、注意すべきは詩想に應じてよく其詩形を變じたることなり。五、其萬葉集にのれるは長歌十七首短歌五十九首六、叙情詩多くして叙景詩少し。

4. 歌聖

赤人と併稱して山柿といはる、されど彼は短歌に長じ此は長歌に長ざり。

三、山部赤人

1. 傳記

不詳元正聖武朝人これ亦万葉歌人中の先輩なり。一、莊重謹嚴、されど其歌多く傳はらず神龜元年より天平八年までのもののみ万葉集に在り。二、長歌よりも短歌に秀づ。三、詩料は人麿と反對にて多く天地山川を咏す其富士山の歌の如きは祝詞の莊嚴なる方面の骨髓を得たる傑作と稱すべし。

2. 其歌

大寶元年遣唐少録にて入唐其後從五位下伯耆守神龜三年筑前守天平五年七十四にて没す、漢學に深く佛教にも通ぜり、其著に當時の名歌を集めたる類聚歌林ありしといへど傳はらず。

1. 其傳記

適勤にして人情を詠むに適す、されば此人叙事詩人の傾ありとの評あり、其万葉集に傳はれる歌は没前五六年のもののみなり。

2. 其歌

1. 其歌には仁徳朝以來のものも有れど主に舒明以後淳仁以前百三十年間の歌にして二十卷あり。

2. 其編者

説多けれども橘諸兄の着手したるを大伴家持完成せりと云ふを良しとす。

四、山上憶良

五、萬葉集

3. 其歌數

長歌二六六、短歌四一八六、旋頭歌六三、連歌一。雜歌、相聞、挽歌、譬喻、四季(四季相聞四季雜歌)に類別す。

4. 其分類

漢字を假名として用ふ(所謂萬葉假名)其用法八、字音に正音、略音訓に正訓、畧訓、約訓、義訓、借訓、戲訓。これを知るには僧春登の萬葉集用字格あり。

5. 其書法

五六一人内女子七〇人著者は山柿、憶良、大伴旅人、大伴家持、笠金村、沙彌滿誓、守部、大隅、刀利宣令、山田三方、阪上耶女、額田女王、石川耶女等其傳記は古義なる万葉集人物傳及作者履歴を見よ。

6. 其詠人

一、此集成れる後凡百六十年既に其讀み方に苦みければ村上朝梨壺五歌仙清原元輔、源順、大中臣能信、紀時文、阪上望城に命じて假名を附せしむ、これを古點と云ふ二、其後次點を附したるは大江匡房、藤原孝言、大江佐國、源國信、源師房、藤原基俊の六人三、新點を附せしは鎌倉時代の僧仙覺なり。僧契冲著萬葉代匠記、荷田東滿著萬葉集童蒙抄、賀茂直淵著萬葉考。

7. 其研究

略解、橘守部著萬葉集拾遺、鹿持雅澄著萬葉集古義、木村正辞著萬葉集美夫久志等(附)此集の抜翠には長瀬眞幸の万葉集佳調及同拾遺、短歌のみには本居太平の山常百首あり。

8. 註釋

歌は其思想に固有の祝詞を融合したる上に佛教漢學入りて著しき發達をなしたるなり。

六、佛教の影響

1. ...

世の常なきを悲み朝露の運命を歎する思想これなり但酒を天の美祿といひ世を土芥視する等は漢學の影響なり。

2. ...

天平寶字八年孝謙帝が百万塔に納むべき陀羅尼經を印刷せり其文字の大きき三分弱の横に細長き一枚刷なりこれ本邦印刷術の嚆矢。

3. ...

上代は文字なく傳唱せしものも此時代には漢字の音訓を利用して書き顯はす

七、漢文の影響

1. ...

我歌の性質彼詩一 作る歌となり目に見る歌となる...万葉の戲書も目に賦の影響を受く 二 題詠の緒を開く...詩賦には必題あり。

八、當時の漢文

- 3. ……我歌の材料大に變化して上代になかりし月花を詠ず。支那文明に眩みて固有の思想を忘るゝ傾ある時代なれば漢文を書くは巧みなりて古事記、日本書紀、風土記を著はすに至る。
- 2. ……日本書紀は華麗なる純漢文を以て書かる。
- 1. ……日本書紀は養老四年舍人親王等の編成したるものなり全部三十卷神代より持統朝に至るまでの歴史なり。
- 3. ……日本書紀には古事記になき古歌多し。
- 4. ……日本書紀註釋…河村秀根著日本書紀集解、谷川士清著日本書紀通證、飯田武郷著日本書紀通釋。
- 2. 1. ……神代より推古朝までの傳誦を舍人稗田阿禮口授して太安萬侶筆記したるものなれば太古の文學とも見るべし。全三卷。
- 2. ……文章の端嚴莊重雄健は祝詞を讀むが如し但誇張せる言辭はは漢文の影響なり。

（三）龍駕到る處或は宴席に歌を召さるゝは彼の獻詩に倣へる也。

九、古事記

- 3. ……奈良朝の初なる和銅五年に成る人麿よりは遅きも家持よりは早し。
- 4. ……其妙處は素尊の高天原に大神に遇ひ給ふ段、素尊の大蛇退治段等。
- 5. 註釋…本居宣長著古事記傳、吉岡徳明著古事記傳纂、敷田年治著古事記標註。

風土記は元明朝諸國に命じて奉らしめたる不完全の地誌の類なり其國々の人情風俗言語及神話傳説等知らるれば價値大なり。

傳説中には純日本思想ならぬ者あり漢學佛教思想の傳播普及の舊きを見るべし。

風土記の今に傳はるは出雲、播磨、常陸、肥前、豊後のもののみ伴信友に風土記逸文、栗田寛に風土記逸文考證あり。

- 4. 註釋…出雲風土記に横山永福著出雲風土記考、内山眞龍著出雲風土記解あり。

其氏祖の來歴を叙したる者にて其書法は漢文に國語の假名を混用し助辭を細書したり恰古事記の文と宣命書とを兼ねたるものゝ如し。

一〇、風土記

- 1. ……

二、氏文

三、宣命

- 3. 2. ……今傳はるは波磨の高橋氏文のみ此氏文は文詞めでたければ有名。
- 3. 参 考 ……伴信友著に高橋氏文考あり。
- 1. ……天皇が百官衆庶に宣布する國語の勅語なり大寶令によれば中務省大内記に
れを作る。
- 2. ……宣命は文學の方面よりのみならず君臣の關係上よりも大に研究すべき價值
あり。
- 3. ……上代の者は傳はらず(日本書紀に載れるは皆漢譯せられたれば)持統以後の
もの續日本紀に見ゆ惜むべきは聖武朝以後漸次漢文の風調を帯び終には漢
文となれることなり。
- 4. ……一、其文體祝詞の如く開國の昔より説き起すを例とす。二、行文祝詞よりも
文章に近づけり。三、對句頗少なし。四、一段毎に大詔手聞食止宣とあるは
祝詞に稱辭竟奉久止宣とあるに同じ。
- 6. 5. 註 ……この宣命の書法を宣命書と稱す假名の起るべき繁なり。
釋……本居宣長著歷朝詔詞解。

第三編 平安朝時代文學

一、總 說

- 1. ……我文學殊に此時代の文學は皇室の隆替(即藤原氏の消長)に隨ひて盛衰す。
騷奢文弱の時代なり風俗壞亂して公卿は朝夕詩歌管絃に耽れること文學に
も顯はる。
- 3. ……佛教は益盛となり名僧輩出すれども他の一方に於て迷信極まり陰陽道盛に
行はる漢學も初は榮えたり藤原氏の門流なられば名譽の地位に達する能
はざりし爲進歩せず。
- 4. ……政治も令制壞れて封建の素地成り豪族各地に起る。
- 5. ……文學は艶麗纖弱、女の如き時代なり、國文の妙を極めたるは大抵女子なり。
- 6. ……此時代は國文始めて盛となれる故に後世の摸範文學となる。

7. 此時代を三期に分つ

- 一、初めの百年藤原氏勢力なき清和朝以前を第一期とす。清和朝以後後三條以前凡百八十年朝廷と藤原氏との如くなりて就中道長榮華を極むれば文學も極盛なる時代を第二期とす。
- 三、後三條以後藤原氏の權衰へて武家の天下となれる凡百二十年間を第三期とす。

一、平安朝第一期

- 1. 此期は漢學隆盛にして詩文の世なりこの詩文の流行は國文の起る基礎たり流行を來しは檀林皇后橘氏の爲學館院を、藤原冬嗣藤氏の爲勸學院を、在原行平は獎學院を、恒貞親王は淳和院を、菅江二氏は文章院を、僧空海は綜藝種智院を建てて教育したるに依る。
- 2. 列聖詩文を善くし給ひ嵯峨淳和兩帝の如きは殊に之れに秀で給へば一層の進歩を來せり。

二、詩文

四、神馬樂

- 1. 古來の風俗歌中より神をなごめ奉るに採れるを神樂、其神樂の餘興及燕宴に供するを儀馬樂と云ふ(儀馬樂は唐樂儀馬樂の柏子を取れる爲名づく)。
- 2. 今の兩樂の譜は醍醐朝定められたるもの神樂には舞の手あれど儀馬樂には無し。
- 3. 奈良朝の末より初まる謳ひ物なりこれが後世の俗曲の起源となる。
- 4. 今傳はる歌數 一神樂歌五十首 二儀馬樂六十首 一より二の方文學的價值多し。

三、假名

- 1. 片假名は奈良朝末に、草假名は此期に殆完成せられたり。
- 2. 文學の功を擧ぐるは第二期なれど所謂平安朝文學隆盛はこれに原因す。
- 3. 五十音圖は吉備眞備作にあらずして此第三期に、いろは歌も空海歿後約百五十年、即、此第二期に成れるなり。
- 4. 六朝唐初の風を學びて翻麗なり。其集 嵯峨勅撰の淺雲集 小野岑文華秀靈集 仲雄王 淳和勅撰の經國集 長峰安 守平編 等編 淳和勅撰の經國集 世等編 を初として紀齊名の扶桑集 藤原明衡の本朝文粹 空海の性靈集 都氏文集 菅家文章等 甚多し。

五、歌

5. 價値

催馬樂は材料主として男女の戀なり稀には諷刺のものもあり皆眞に人情を極む詩經の如し。

6. 歌詞に俗語のなまり混すこれ實に言文二途の端なり。

橋守部著神樂歌入綾、催馬樂入綾、一條兼良著梁塵愚案抄、熊谷直好著梁塵愚案後抄、高田與清著神樂催馬樂新註、今井彦三郎著神樂催馬樂詳解。

7. 註釋

1. 詩文盛なれど歌も無きに非らず此期の初は一時衰へしも後に復興せり。

2. 所謂六歌仙(僧遍照、在原業平、大伴黑主、文屋康秀、小野小町、僧喜撰)は此時の人なり古今集の讀人不知も亦然り。

一、在原業平の行跡を歌によりて書ける物なれば實際の記事なり著者不詳。

二、男女間の情事を骨子とす文章は歌序の如し。

三、修辭巧みならざれど簡古なり。

六、物

語

四、註釋 甚多し清水濱臣著添註伊勢物語、藤井高尚著伊勢物語新釋、佐々木弘綱著伊勢物語俚言解等。

一、最古の作り物語にして文章を主とす。

二、巧に男女間の眞情を述べて後の物語の基を開く平安朝時代の性質備はれり。

三、滑稽中に諷刺を含む、文章道勁簡潔。

四、寶樓閣經の趣向を採る、月中の女子は漢學思想なり。

五、註釋 小山伯鳳著竹取物語抄、田中大秀著竹取物語解、佐々弘綱著竹取物語俚言解。

二、平安朝第二期

1. 歌文二つながら隆盛なる時代なり後世の模範文學。

2. 歌は宇多朝歌合始まりて盛に向ひ醍醐朝古今集の勅撰成り村上朝和歌所置かれて沖天の勢を成す、萬葉集に比して穢麗なるは時代の影響なり。

七、散韻

文文

八、紀貫之

- 3. …… 今様歌と云ふ一新體興りて第三期に互りて盛なり、是萬葉集の五七調が漸次七五調に傾き來れる證なり、これを橘守部は朗詠の如き詩句を諷ふ口癖の移れる爲となす。
- 4. …… 文は草假名の使用圓熟し男子まで之を弄び文豪輩出するに及びて漸次極盛に入る。
- 1. …… 延喜時代の文學代表者なり歌に古今集、新撰和歌集、萬葉集鈔、文に土佐日記、大堰川行幸序、古今和歌集序あり。
- 2. 傳記 歌人望行子、碩學長谷雄孫、延喜中御書所預越前權少椽少内記大内記、延長中有京亮土佐守、天慶中玄蕃頭木工權頭、天慶九年卒す。
- 3. 其歌 一、古今集を代表す。二、修辭の纖巧著し。三、譬喩盛に用ひられ。
- 4. 其文 四、擬人法も發達す。五、通弊は理窟に落ちたるにあり。

第一勅撰集にて延喜五年紀貫之、紀友則、凡河内躬恒、壬生忠岑等の手に成る二十卷、歌數千百首、四季、戀、賀、羈旅、離別哀傷、雜物名、長歌、旋頭歌、俳諧歌、大歌所に部門を分つ

九、三代集

- 1. 和古歌集今
- 2. 和後歌集撰

- 一、長歌振はず短歌も連歌とならむとする傾を呈して詩形漸次短くならんとす。
- 二、艶麗巧致……萬葉に比して強からざるは斷定體一變して推量體となればなり全く時代の影響。
- 三、僧契沖著古今和歌集餘材抄、本居宣長著古今集遠鏡、香川景樹著古今和歌集正義。
- 四、註釋 天曆五年梨壺五歌仙（紀時文阪上望城清原元輔大中臣能宣源順）の第二奉勅撰にて二十卷、歌數千四百首。玉石混淆、れ古今集に入らざるを集めたればなり。詞書の書法も整はず。形式よりも思想を重じたる選なれば古今の兼備したるには劣れり。
- 四、註釋 僧契沖著後撰和歌集評註、中山美石著後撰集新抄、本居宣長著後撰集詞のつかれた。

3. 拾遺集

三、註釋

第三の勅撰にて花山院御選二十卷歌數千三百五十一首初めて神祇部を設く。
 後撰拾遺共に詞の上に彫琢を加ふる風愈進みて造花の如し。
 僧顯昭著拾遺抄註、三代集通じて釋せるは北村季吟著八代集抄なり近時六合館活版にて翻刻す又其書の成立批評等を集めしものに歷代勅撰和歌考吉田令世著あり存采叢書中に収まる。

一、土佐の日記

1. ……紀貫之著にて紀行の最古きもの。
 滑稽を交へたるは此時代の特色なり竹取にも既に見ゆ悲哀少く華奢風流のこれに傾き易ければ然るなり。
 2. ……北村季吟著土佐日記抄、岸本弓弦著土佐日記考證、香川景樹著土佐日記創見、富士谷御杖著土佐日記燈。

二、歌序

1. ……万葉集にては純漢文なりしが古今和歌集序より假名文始まる。
 2. ……枕詞、縁語、疊語、對句等を用ひて語調をこまなふ。

3. ……其有名なるもの紀貫之大堰川行幸和歌序、古今集序、源順庚申夜奉和歌序、平兼盛子日行幸和歌序。

三、大和物語

1. ……後撰集成れる頃の作なり世に業平子滋春著さいへるは非なり。
 2. ……伊勢物語の如く實事の物語なり八雲御抄に伊勢、大和、源氏は歌人の見るべきものなりさいへり。
 3. ……文章簡潔
 4. 註釋…北村季吟著大和物語抄、井上文雄著冠註伊勢物語。

三、落窪物語

1. ……著者不明なれど此時代のものたることは文にて明なり。
 2. ……繼母が落窪の姫君を苦めたる物語なり當時の風俗として一夫多妻なりしかばかゝる出來事は多かりしならむ。
 3. ……文詞適麗。
 4. 註釋…中村秋香著落窪物語諸抄大成。

四、どりかへばや物語語

- 1. ……活潑なる女と柔弱なる男とを取りかへたる物語なり。
- 2. ……男女の情話を材料とせるは此他の物語皆然り是腐敗せる上流社會の反映なり。

五、各種の物語語

- 1. ……此時代は各種の物語續出したりされど皆亡びて傳はらず惜むべし。
- 2. ……住吉物語の今あるは偽撰なり交野少將物語、正三位等は源氏物語、枕草子に其名のみ残る其他有名なるは濱松中納言物語、朝倉物語、寢寢物語、井手中將物語、梅壺少將物語、自から悔ゆる物語、あし火たく屋の物語、ふせいの少將物語等。
- 3. ……黒川春村著に古物語類字抄あり参考すべし。
- 1. ……源氏物語より古きものにて最大なる且源氏物語に親密の關係を有するものなり。
- 2. ……作者を世に紫式部父爲時といひ傳ふれども非なり又源順といふも根據あらず。

六、宇津保物語

- 3. ……細井貞雄説によれば源氏物語は此の雛案にてしかも其續編なりなり。
- 4. ……清原俊隆孫仲忠を主人公として之に姫貴宮を配して宮廷の内情貴族の狀態等を寫實的に描出したたり其脚色著しく複雑す。
- 5. 註 釋…細井貞雄著空物語玉琴五卷。

七、紫式部

- 1. ……菅原文時門下藤原爲時の女にて藤原宣孝に嫁し二女を産む未三十ならずして夫を失ひたるが源氏物語は其寡居中になれり云ふ寛弘二三年頃上東門院彰子に仕ふ貞淑温良當時の女流と其性を異にす萬壽二年後に歿す。
 - 2. ……其名は父式部丞なれば初藤式部と呼ばしを其花の色に取りて紫式部といふとなり一説源氏の紫上を寫して巧なりしかばともいふ。
 - 3. ……安藤爲章の紫女七論に其傳あり、源氏物語を石山にて書けり云ふ説の否なるは本居宣長源氏物語玉小櫛に詳論す。
 - 4. ……其著書源氏物語、紫式部日記、及紫式部集。
- 一、光源氏君と云ふ皇子を主人公として之に紫上と云ふ佳人を配して其來歴關係を叙述せる寫實小説なり。二、全部五十四篇。三、之を大別して前四

一八、源氏物語

- 1. 十四篇には光源氏の生涯、後十篇所謂宇治十帖には其子薰大將の生涯を寫す。四、前は華美優麗を極め後は沈鬱寂寞を盡す。五、其卷の名は、桐壺、藤木、空蟬、夕顔、若紫、末摘花、紅葉賀、花宴、葵草、柿木、花散里、須磨、明石、浮標、蓬生、關屋、繪合、松風、薄雲、朝顔、乙女、玉鬘、初子、蝴蝶、螢、常夏、篝火、野分、御幸、藤袴、檜柱、梅枝、藤裏葉、若菜、柏木、横笛、鈴虫、夕霧、御法、幻、雲隱、匂宮、紅梅、竹河、橋姫、椎本、總角、早蕨、宿木、東屋、浮舟、蜻蛉、手習、夢浮橋。
- 2. 假構の事なれど幾分は醍醐朱雀村上三朝の事實を書込めるものにて固より物の哀れを知らずる爲の作なり。
- 3. 此物語に誤脱卷ありといふ説あれど關根正直氏は之を駁して然らずといふ
- 4. 文章 古體を逸出して流麗婉曲詞華の妙を極む國文學上の至寶として古來尊重せらるるは宜なりと稱すべし。
- 5. 註釋 古來頗多けれど北村季吟著湖月抄、萩原廣道著源氏物語評釋自首卷至花宴を良しとす評論にては本居宣長著源氏物語玉小櫛、安藤爲章著紫女

七論 紫家七論見るべし。

一九、紫式部日記
二〇、清言少

- 1. 宮仕の間見聞したる處を雜記せる日記なり。二卷
- 2. 文章 源氏物語の如く苦心の迹見ゆされど流暢讀むべし。
- 3. 註釋 清水宣昭著紫式部日記釋、壺井義知著紫式部日記傍註。
- 4. 著書 枕草子十二卷。
- 5. 社會の事態、日常の感想をあらゆる題目の下に記せる漫筆なり。
- 6. 簡勁にて批評的變化に富む。
- 7. 觀察細緻奇響の句多し。
- 8. 句法の變化多し。
- 9. 省筆法見るべきものあり。
- 10. 莊重を失ひて技巧に

後撰集撰者元輔の女にて機敏頓才文學の造詣深く此時代の女を代表して男子を凌げり長じて一條帝皇后定子に仕ふ其歿年等詳ならず。

當時は中宮彰子と皇后定子と其權力を較べし花やかなる時代なれば文學に於ても紫式部と相對峙して競ひたり紫式部と全く其性質を異にす。

其漢文學に深かりしは著書にて知らる但當時の才媛は皆斯學の素養ありしなり。

三、物狹ささ語衣ころも

- 1. ……紫式部女、大貳三位著、狹衣大將を主人公とせざる和文物語なり。八卷
- 2. ……行文流暢なるも大に源氏物語より劣る。
- 3. 註 釋……著者不明狹衣物語下組あり續群書類從に収まる。

三、和泉式部日記

- 1. ……紫式部と同時代の人大江雅致女和泉守橘道貞妻和泉式部の日記なり。
- 2. ……主として敦道親王の通ひ給ひし時の記なり。

二、日蜻蛉記

- 1. ……右大將道綱母著日記にて隨筆にも似たる所あり凡此頃の日記、紀行、隨筆は類似して其間に劃たる別なし。
- 2. ……兼家の微なる時より道綱の生まれし前後二十餘年の記にて村上、冷泉、圓融朝の風俗の一斑知らる。

一流るゝは其弊か。

- 3. ……文選、白氏文集、史記、漢書等をよく玩味したること行文に顯ばる。

- 4. 註 釋 關西惟中著枕草子傍註、北村季吟著枕草子春曙抄、松平靜著枕草子詳解。

二五、唐物語

- 1. ……作者不詳……續群書類從に収まる。二卷
- 2. ……支那の話說數十篇を國文に意譯したるものにて每篇末和歌一首を載す。

二六、物榮語華

- 1. ……作者未詳、安藤爲章は榮華物語考に説きて女房の日記を本として後人の書き加へしものならむと云ふ隨ふべしされど普通には右衛門尉時用妻赤染衛門の著とす彼は道長室倫子に仕へ歌文をよくせり。
- 2. ……宇多帝寛平より堀河帝寛治まで二百餘年間の和文歴史なり主として道長の榮華を叙したるものなればかく題したるなり。四十卷
- 3. ……芳賀文學博士の説によれば初めより三十段鶴林まではやく公にせられ其に依りて大鏡出て其後續きの十段成りしものなるべしと。
- 4. 註 釋……和田英松佐藤球合著榮華物語詳解。
- 1. ……藤原爲業著、爲業は崇徳朝に仕へしが剃髮後大原山に遁れ寂然と云ふ二弟寂念、寂超と併せて大原三寂と呼ぶ。
- 2. ……藤原氏の全盛を書けるもの即文徳朝より後一條朝まで百七十六年十四代の和文歴史。

二七、大鏡

- 3. 支那記傳体に倣ふ寝殿の筆跡も見ゆ又或部分は源氏物語品定め段に學び佛經の書法にも似たり。
- 4. 文章…其適健なる決して女文にあらず。
- 5. ……後のこれに倣へる水鏡、増鏡…これを三鏡と稱す。
- 6. 註釋…大石千引著觀短抄、落合直文小中村義象合著大鏡詳解。

三、平安朝第三期

二六、今昔物語類別

- 1. ……西宮左大臣源高明孫隆國著、隆國は官權大納言、每夏宇治平等院南なる南禪寺別業に避暑す避暑中行人に茶を喫せしめて其語れる所を筆記したるが是也每章冒頭に「今は昔」とおければかくいふ、一名宇治大納言物語と云へり後に此書に漏れたるを拾ひ集めしめて宇治拾遺物語といへるあり体裁同じ。
- 2. ……此書は奇怪の説話を集めたる奈良朝僧景戒著日本靈異記文と同種の者なり
- 3. ……當時の迷想、風俗等を見ることを得。
- 4. ……當時の俗語、方言、等を知らることを得。
- 5. ……
- 6. ……本書國史大系中に収まる。
- 7. ……凡物語と古來名づくるに三種あり
 - 一、事實を敷衍したる者…伊勢、大和、今昔類。
 - 二、作者の趣向を凝し者…竹取、源氏、狹衣類。
 - 三、歴史をかける者…榮華、大鏡類。

二九、著作者

三〇、讚岐典侍日記

三一、更科日記

- 1. ……第二期の作者は皆女子なりしが此第三期前後より一變して男子となれること注意すべきなり。
- 2. ……作者一變したれば物語の性質も亦變す。
- 3. ……文體語詞共に強き風を帶ぶ大鏡今昔物語皆然り。
- 4. ……此期は物語全盛期過ぎたる後にて鎌倉文學に移るべき過渡期なり。堀河帝に仕へし讚岐典侍が同帝の御腦より崩御及御烏羽帝即位大嘗會までを録したるもの也。
- 2. ……更科日記と共に前期女流文學の餘波にて珍とするにたらず。菅原孝標女が父上總介の任滿ちて京に歸れるより三十九年間の日記紀行、物語なり。
- 1. ……

三、歌集

2. ……文章…清新にして見るべし。
3. ……註釋…小山田與清著更科日記考證。

1. 勅撰第四
後拾遺集
一、白河院朝藤原通俊撰。
二、漸く古調を離れ纖細卑俗に陥る。
三、釋教部を新に設く。

2. 勅撰第五
金葉集
一、源俊賴崇徳朝に奉る。
連歌部を始めて設く拾遺に其體のものはありしも未其部は無かりしなり。

3. 勅撰第六
詞花集
一、藤原顯輔近衛朝に奉る卷數古今集以下皆二十卷なるに金葉とこれとは各十卷也。
後拾遺の卑俗淺近を避け古體の高調を慕ひしも猶巧緻を脱せず。

是より先顯輔子清輔、續詞花集を撰したれど二條院崩御の爲勅撰に入らず。

4. 勅撰第七
千載集
一、後白河院の勅を奉じて藤原俊成奉る二十卷。
二、詞姿を重じ餘情の深きを集めたれば文質中を得たりといふべきか。

5. 私集
一、藤原公任金玉集。 二、能因法師支々集。
三、敏行、元輔、基俊、俊成等當時歌人の各其家集。
四、堀河院兩度百首即康和と永久との催しの集は強き歌風の評あり見るべし。

6. 歌
風・思想上よりは著しく變じざるも譬喻益こまかくなれり。

1. 歌合
一、前期より和歌の隆盛につれて歌合の遊戲勃興して歌什を褒貶品隲すること行はる。二、歌合とは二句を左右の一番として其勝負を判するなり。

2. 歌學
一、歌論の盛と共に歌學はじまりて此期其著書等夥しく出づ。
二、藤原公任著和歌九品、新撰髓腦、藤原清輔著奥儀抄、袋草子、僧顯昭著袖中抄、源俊賴著無名抄、藤原基俊著悅目抄

三、歌合及學

三、今様及朗詠

1. 今様歌

一、藤原俊成著古來風體抄等。

普通七五を四つ並べしものを云ふ。

二、もと和讃にて佛教に用ひしものなるが當時盛に一般に行はれ源平時代は白柏子之を歌ふ。

三、平安朝第二期より行はる初は詩賦中の佳句を訓讀に吟じたりしが後には和歌までも同じく朗吟するに至る。

四、今様朗詠は催馬樂とおなじ謠ひ物にて總稱して野曲といふ。

五、歌調の五七が七五に變するに至りしはこの朗詠の盛なりし影響。

六、鎌倉時代和歌の本歌取りはこの朗詠に胚胎す。

一、藤原公任選入卷。

七、十九部門に別つ其詩文五八四章和歌二一六首作者一六二人。

八、註釋僧玄惠著和漢朗詠集抄釋、僧永濟季北村吟合著和歌朗詠集註。

2. 朗詠

第四編 鎌倉室町幕府時代文學

1. 鎌倉幕府立ちて政治一變し社會の状態も一變す、此變は平安朝第二期より漸次來る、源氏物語今昔物語等に見ゆ。

2. 文學は多く僧侶の手に握らる、是日本的佛教發達の影響なり殊に禪味は一般に影響したり。

3. 文學の性質一變 一、平安朝代……華奢、風流、快活。

二、鎌倉室町代……質素、幽僻、沈痛。

4. 漢語と佛語とを混ぜる和漢混淆文は平安朝よりも雄健に漸く調和して明治現代の普通文となるべき基礎造らる。

5. 此時代は隱遁行脚する者多ければ紀行文大に發達す。

6. 文學は衰頹荒涼の時代なり然れど徳川時代文學はこゝに準備せられたるあり。

一、總說

二、軍記物語

- 7. 此時代文學 一、鎌倉時代 後鳥羽朝文治より後醍醐朝建武中興まで凡百五十年間。
- 二、室町時代…室町開府より徳川開府まで凡二百六十年間。

一、鎌倉時代

- 1. 平安朝末の事實物語榮華、大鏡と漢文なる將門記、後三年合戦記と調和發達してこの漢語佛語を混へし勇壯活潑の記となる。
- 2. 軍記物語は純粹の歴史にあらず事實に背くも面白く書くが主眼なりしなり故に史料と成し難し隨て文學價值一層なり。
- 3. 作者は隱遁者なり人事の變遷甚しき時代なれば雲上の情話よりも厭世悲哀の滿てる武人の功名談當時の嗜好に適應するなり。
- 4. 其種類保元物語、平治物語、平家物語、源平盛衰記、太平記。
- 1. 保元平治の兵火騷擾の事迹を記せるものなり。
- 2. 著者不明世に藤原時光子葉室時長といはる。

三、保元物語

- 3. 行文細密意匠周匝に勝る、軍記中最初に出てしことは其文の柔きにて知らる。
- 4. 註 釋…中根淑著標註保元物語同平治物語。

四、平家物語

- 1. 源平の興亡を叙したる文學的の記なり。
- 2. 著者不明兼好法師は信濃前司行長の作といへど確ならず盛衰記よりは前に成りしなるべし。
- 3. 全篇に宗教的信念一貫せるは本期の特質を顯はしたるものなり。
- 4. 註 釋…平道樹著標註平家物語、今泉定介著平家物語詳解。

五、源盛衰記

- 1. 源平二氏の盛衰の事迹を叙したるものなり異本多けれど水戸彰考館參考源平盛衰記を善しとす。
- 2. 著者不明然れど建長年間の作たることは知らる。
- 3. 全體の結構と文辭の詩情とに富める點他書より勝る。
- 4. 和漢文混淆の度調和成熟す。

六、太平記

- 1. 南北朝末の作なれど同性質物なれば此に併載す花園朝文保二年より後村上朝正平二年まで五十年間の戦亂事迹を記したるなり。
- 2. 著者は文中三年没の小嶋法師なり然れどこの僧一人の手になりしには非ざるべし。
- 3. 註釋 原尤敷著太平記綱目、西道智著太平記大全、國文學會編太平記註釋同志會出版太平記詳解。

七、平家琵琶

- 1. 平家物語成ると共に之を琵琶にて語るこゝ起る、足利時代の謡曲成りて能に舞ふは是の一變なり徳川時代の芝居は是の再變なり、軍記物の後世文學に與へし大影響以て知るべし。
- 2. 琵琶は舊くより傳れり源氏物語中にも琵琶法師あり然れど悲愴ふる軍物語を調ひて強くはこれに初まる。
- 3. 平安朝管絃三船の樂と琵琶にて血腥き戦話を聞く樂きは兩朝文學の相違の結果。

八、方丈記

- 1. 著者が見聞したる社會の事變及己が境遇を記述したる者なり其書名は遁居の方丈なるより名つく。
- 2. 一、鎌倉時代の思想をよく代表せる隱遁文學者鴨長明の著なり。二、長明は菊大夫、加茂洞官子、後鳥羽朝和歌所を置かれて寄人となりしが遁世して蓮胤といひ建保四年歿す年六十三。三、著書に無名抄、四季物語、發心集、文字鏡、瑩玉集等有り。
- 3. 文章 漢文脈なる和文の完全せるものにて和漢混淆文の調和益進めることを見る。
- 4. 内容 時世の變動及人情まのあたり見る如く悲哀の感飛躍す。
- 5. 註釋 加藤盤齋著方丈記涸流、槇島昭武著方丈記流水抄。

九、西行法師

- 1. 隱遁者にて有名なり長明より前の人も後鳥羽上皇北面士二十三歳にて出家脱俗行脚にて世を終ふ歿年七十三、當代にはかゝる所行の人多かりしなり。
- 2. 歌文をよくす山家集は其歌集なり當時の歌壇に一新機軸を出だす。
- 3. 其著撰集抄は佛道に志して發心せる譚を集めたるものなり。

一〇、十六夜日記

- 1. 藤原爲家の後室阿佛尼が我子爲相の領地播磨細川庄を庶兄爲氏に押領せられたれば建治三年之を訴へむため鎌倉に下りし紀行なり尼は弘安六年鎌倉にて歿す。
- 2. 文章は平安朝に倣へるも内容悲愴にて鎌倉文學の特質を顯はす。
- 3. 其見聞する所皆悲痛の種にて土佐日記の詠謔百出するものと比すべくも非らず。
- 4. 註釋：高田與清著十六夜日記殘月抄。

一一、海道記

- 1. 後鳥羽順德朝に仕へし源光行の海道を鎌倉に下りし紀行なり。
- 2. 文體は和漢文混淆よく調和せざるも詩を引き佛語を引きて其思想深遠なり
- 3. 六朝駢儷體を學べる迹明に見ゆ。

一二、東行紀

- 1. 鎌倉幕府に仕ふる光行子親行が東下りの紀行なり此人定家に親炙したれば其歌見るべきものあり。
- 2. 文章海道記より一步進みて方丈記に亞ぐ。

一三、辨内侍日記

- 1. 藤原信實女の寛元四年御讓位より建長四年まで七年間の日記なり。
- 2. 文章枯淡に失す。

一四、中務内侍日記

- 1. 宮内卿永經女が後深草院の崩御より正應五年までの日記なり前期の才媛を學べるのみ。
- 2. 悲哀を極むれど情足らず。
- 1. 内大臣中山忠親が大鏡に摸して作れりし傳ふ忠親は師實會孫、六條高倉安徳に仕へ六十五にて没す。
- 2. 神武帝より仁明帝までの略史なり。

一五、水鏡

- 3. ……文章記事共に大鏡に比すれば見るに足らず、彼は記傳體なれど此は編年體なり
- 4. ……これぞ大鏡、増鏡を世に三鏡と稱す、此は唯大鏡以前の補充に過ぎずして最拙劣なり。
- 5. 註 釋……江見清風著水鏡詳解。

一六、増鏡

- 1. ……一條冬良の作といへど伴信友説によれば後醍醐帝隱岐より還幸後幾くもな
- 2. ……後鳥羽帝より後醍醐帝の元弘三年還幸せられしまでを書く全篇十七章。
- 3. ……此書も太平記も南朝方の人の手になりしは疑ふべからず。
- 4. ……文章流麗。
- 5. ……三鏡を通すれば後醍醐帝までの和文歴史を見ることを得但其間に缺けし處は徳川時代の荒木田麗女、池の藻屑、月の行方の三篇にて書き足す。
- 6. 註 釋……和田英松佐藤球合著増鏡詳解。

一七、今鏡

- 1. ……著者不明榮華物語に摸して綴られたれば續世繼ともいひ又小鏡ともいはる
- 2. ……後一條帝より高倉帝までの事項を和文にて書けり。
- 1. ……南朝の北畠親房著、博學多識の人なれば兵馬控徳中に書きたるなり、著者は師重子、永仁以降五朝に歴仕し元弘三年從一位准大臣、正平六年准三宮、正平九年薨す年六十二。
- 2. ……太古より後村上帝までを編年體にかゝれし國文の歴史なり。
- 3. ……尊王を發揮する目的にて書かれしも佛教思想大に交る其開闢説は印度のものなり時代の影響以て知るべし。
- 4. ……議論壯大明快文明史と稱すべし。

一八、神皇正統記

- 5. 文 章……和文の流暢に漢文の勁健を加へて和漢混淆文の上乗たり。
- 1. ……一種の雜史にて平安朝末の今昔物語の系統を引けるものなり。
- 2. ……三書とも建長頃の作者不明、著聞集は後宇多朝人橋成季といひ傳ふ。
- 3. ……今昔物語に倣ひて其以後に見聞したるを書き集めたるものなれば文体同じきのみならず全く同じ文章も交れり。

一九、古今集

- 10. 訓抄
- 9. 古今著聞集

宇治拾遺物語

4. 十訓抄古今著聞集に注意すべきことは各總論を加へて每章訓誡の意味を特筆せる是なり、訓誡は此時代より漸く起れるなり。

5. 三書とも國史大系中に収まる石橋尚寶著に十訓抄詳解あり。

1. 卜部兼好の漫筆なり兼好は兼顯の第三子後宇多朝左兵衛尉たりしが崩后落髮遁世、歌文に巧なり正平五年佛滅日歿す年六十八此人神官の家に生れて儒老の道に深く佛教の奥妙をも極めたる雜駁の人なれば此書も亦雜駁。此書枕草子に似せて書きたるものなれど内容大に違ふこれ即平安朝文學と鎌倉文學との大相違。

二〇、徒然草

3. 來歴 新井白蛾著牛馬問云法師自世に傳へむと著したるに非らず今川了俊の小姓命松也嘗て兼好に仕へたる故を以て了俊の命により法師の遺跡を尋れて断片を蒐集したるものなれば卷頭の語を採りて徒然草と名けしなりと

4. 道德上の訓誡を挿むことを以て世に非常に尊ばる。

5. 文章 絢爛、和文の軌範となすべし。

6. 價値 古來愛讀せらるること此書に過ぐるものは稀なり以て其價値を知るべし。

7. 註釋 林羅山著鐵槌、北村季吟著徒然草文段抄、淺香久敬著徒然草諸抄大成。

1. 此時代には頗多し。

2. 著名なるもの美文といはれざるも平康賴著寶物集、無住法師著沙石集、釋蓮如文章類なり殊に僧向阿の假名三部抄は和文體にて文章も美なり賀茂眞淵著に其言釋あり。

1. 詠歌は益盛にして後鳥羽土御門順徳院皆これに熱中し給ふ故に此時代の散文は隱者の手に移りしもののみ猶大宮人の生命たり。

2. 後鳥羽朝に和歌所を置き愈獎勵す藤原定家家隆は當代の名手にて此新古今集の代表者なり。

3. 一此第八勅撰は藤原定家藤原家隆源通具藤原有家藤原雅經僧寂蓮等土御門朝元久二年撰す二卷數二十歌數千九百七十八古今集よりも多し。

三、佛者の法語類

1. 此時代には頗多し。

2. 著名なるもの美文といはれざるも平康賴著寶物集、無住法師著沙石集、釋蓮如文章類なり殊に僧向阿の假名三部抄は和文體にて文章も美なり賀茂眞淵著に其言釋あり。

1. 詠歌は益盛にして後鳥羽土御門順徳院皆これに熱中し給ふ故に此時代の散文は隱者の手に移りしもののみ猶大宮人の生命たり。

2. 後鳥羽朝に和歌所を置き愈獎勵す藤原定家家隆は當代の名手にて此新古今集の代表者なり。

3. 一此第八勅撰は藤原定家藤原家隆源通具藤原有家藤原雅經僧寂蓮等土御門朝元久二年撰す二卷數二十歌數千九百七十八古今集よりも多し。

三、新古今和歌集

4. 形式

一、詞遣ひ華麗にして潤色甚しく造花の如し。二、其長所は用詞新奇句法轉換を極め助辭を省くことに注意す爲に漢文句調に似たるあり是漢文漢詩の句調が之を促したる結果なり。三、三句切の歌非常に多しこれ連歌となりて上下の句別るゝ基なり。

5. 内容

一、思想枯渴新奇ならず。二、主に古歌を本として少し作りかへたるものなり。三、換骨脱體に力を用ひたり是文學衰ふる證なり源因は平安朝末より朗詠盛に行はれて古の詩歌を諳するが一の修養となりし爲なり、此事は鎌倉室町全般に亘る現象にて徳川時代にまで其跡を傳ふ。一、此時代文學の性質を顯はす。二、てはを省くは俳句に行はるゝ所にして其淵源ここに存す。三、又體言止の歌多きも俳句に其範を垂るゝなり。

6. 此集

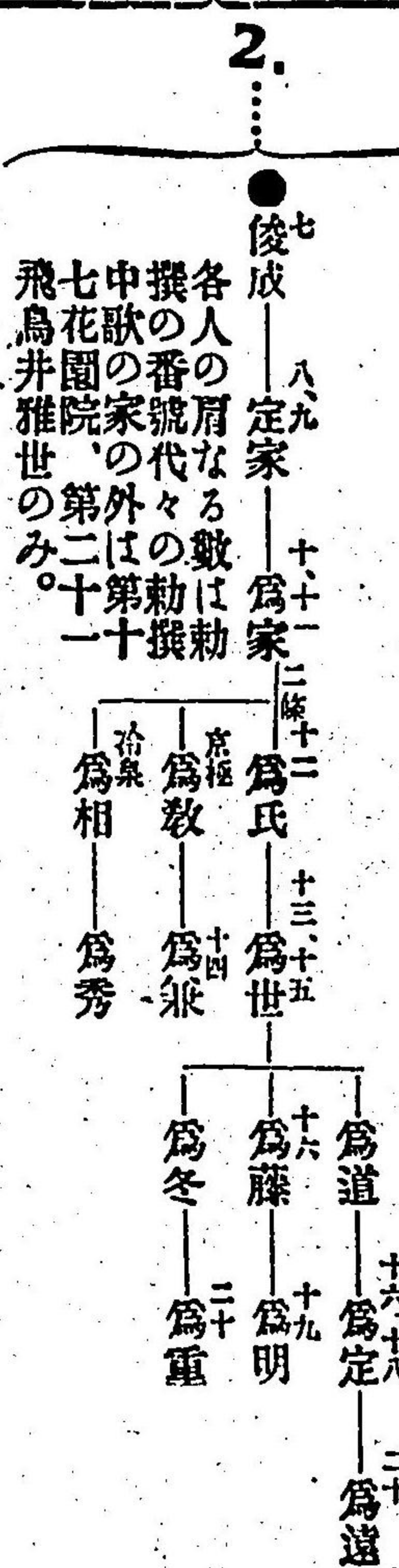
7. ……古今集以下本集までを八代集と稱す通釋せるは北村季吟著八代集抄なり。

8. 註釋

本居宣長著美濃の家苞、石原正明著尾張の家苞、鹽井雨江著新古今集詳解。

三、和歌の門閥

1. ……平安朝末拾遺集時代より歌學起りて古歌を暗ずるは學者の證、博學の方儀となりて新しき詞を用ひず爲に言文愈隔離して古語を學ばざれば歌作られぬ事となり是古言崇拜、古代思想の結果。歌の家…定家の一統を歌道師範家と稱せらる次の略系を見よ歌道衰頽は自然の勢。



3. ……定家の規則さて怪しき法式を設け秘事秘傳を唱へて一子相傳す。

4. ……文學の發達を阻害す毎代なれる勅撰集に一も見るべき無し。

5. ……歌道の争政治上にも影響して南北朝の軋轢もこれに源因す云ふ。

二四、勅歌撰集

- 1. 舊式を套襲せるは歌集の其名を見てもしらる。
- 2. 思想 枯渴甚し、玉葉、風雅、偶新機軸を出さむとして失敗す。
- 3. 第九、新勅撰 後堀河朝貞永元成。第十、續後撰 後深草朝建長三成。第十一、續古今 龜山朝永文二成。第十二、續拾遺 後宇多朝建治二成。第十三、新後撰 後二條朝嘉元元成。第十四、玉葉集 花園朝正和二成。第十五、續千載 後醍醐朝元慶二成。第十六、續後拾遺 後醍醐朝正中二成。第十七、風雅 北朝光明貞和二成。第十八、新千載 後光嚴延文四成。第十九、新拾遺 後光嚴貞治二成。第二十、新後拾遺 後小松至徳元成。第二十一、新續古今 後花園朝永享十成。
- 4. 歌の變遷及批評の書には富士谷御杖著和歌六運辨、荷田在滿國歌八論、賀茂眞淵著歌意考及初學、香川景樹著新學異見等あり。

二五、新和歌集

- 1. 南朝は勅撰集に預らざれば宗良親王之を修む親王は後醍醐帝子征東將軍となりて逆賊を討す後僧となりて諸國に流寓し給ひ元中二年薨す年七十四。
- 2. 弘和元年成る後龜山天皇勅撰に准す。

二六、有名ある家集

- 1. 源實朝の金槐和歌集、一新機軸を開けり。
- 2. 藤原家隆の壬二集、詞藻華麗。
- 3. 僧頼阿の草庵集、幽婉餘情に富む。

二、室町時代

- 1. 皇室の衰頽に伴ひ鎌倉よりも一層文學衰へたる時代なれば其文學の形式雜駁、謠曲は其代表者なり。
- 2. 文學益僧侶の手に潜む謠曲は主に其れに依て生まる即一休、正徹、宥快等は其作者。
- 3. 謠曲は能の曲なり、當時行はれしあらゆる文學(朗詠、今様、平家、和歌等)の粹を配合補綴したるものなり内外二百番猶この外多し。
- 4. 古詩歌等知らざるものには謠曲の趣味知られず即平民的にあらず。

二七、謠曲

- 5. 各篇大概同趣向、所謂千篇一律、一例迷執を抱ける幽靈出現して舊事を語れば法力ある僧の回向にて成佛するなり。
 - 6. 常代の理想迷信を顯はす、佛教の勢力顯著、一切衆生草木國土皆成佛の實を示す。
 - 7. 創作の價値は乏きし莊重なる漢文調と優雅なる國文とを巧に調和して和漢混淆文を完成せり。
 - 8. 古來存在の傳説を遺憾なく發展せり羽衣、浦島、葛城、大蛇、道成寺等はなり
 - 9. 我國民の喜ぶ武勇譚を材料とせるは日本魂の養成に裨益を與ふる點からず
 - 10. 德川時代の戯曲の基礎となるこれ歴史的價値。
- II. 註釋
 五山僧徒著古抄、加藤盤齋著謡増抄、大井貞恕釋惠南著謠曲拾葉抄、大和田建樹著謠曲通解。

1. 猿樂田樂の能藝より出でて、一新機軸を開き謠曲につれて歌舞する技なり足利三代將軍義滿時代觀阿彌及其子世阿彌等が之を創めたりと云ふ。

2. 昔の東遊久米舞及白柏子猿樂田樂等あらゆる歌舞類を巧に集め含ませしめたるものなり。

3. 支那の傳奇雜劇の影響を受く。

二八、能

四、順達の序

- 1. 神事祝言物…神前にて奏せし遺物、舊き性質のもの。
 - 2. 佛教の理想を顯す物…奈良朝佛教が國家安全を祈りしより系統を引く。
 - 3. 時代物…所作を示すもの田樂の時よりあり。
 - 4. 源氏物…歌を神聖なるもの勢力あるものこそせりよりなり。
 - 5. 世話物…當時の人情を寫したるもの。
- 五、流派……後世、觀世、實生、今春、金剛及喜多の五流となる。
1. 新に起れる能は滑稽の元素失せれば其滑稽のみを主とするを狂言と名づけて發達したるなり。
2. 其名は能の替の間の狂言男の狂言が獨立したるなるべし。

二九、狂言

三〇、狂言記

- 3. ……對話のみにて曲をなし後世の脚本小説の基礎を爲す文學上の價值最多し。
- 4. ……當時の出來事を演ずる進歩的のものなり。
- 1. ……狂言の次第を俗語にて記述したる記なり。
- 2. ……今傳はるものは江戸時代の初増減を施し文章をも改刪したる迹あり。
- 3. ……滑稽に流れざるは徳川文學に比して特に當代の性質なりこれ全く上流の弄びし結果。
- 4. 註 釋……大和田建樹著に數番を釋せる狂言評釋あるのみ。

三一、狂言と謡曲との關係

- 1. ……謡曲は古詩歌の成句補綴にて保守的。狂言は當時活きたる彫琢の對話なれば進歩的なり。
- 2. ……謡曲にて力ある僧侶鬼神幽靈鬧寃等すべて狂言にては力なきものとなす。
- 3. ……謡曲は淨瑠璃の素をなし狂言は脚本の基をなす。
- 4. ……各變遷の歴史は小中村清矩著の歌舞音樂略史に就いて見よ。

三一、能と芝居との關係

- 1. ……能の橋がよりより芝居の花道は起れるなり。
- 2. ……式三番叟は能を真似するふり。
- 3. ……能は貴族的娛樂、是保守的なればなり、芝居は平民的娛樂、是進歩的なればなり。
- 4. ……能より芝居の材料を探る、芝居の舊き物ほど然り。

物臭太郎 鉢かづき、御曹子 嶋渡り、唐糸双子、福富双子、梵天國、等多少滑稽の意味を含む。

- 2. ……鎌倉時代よりの繪巻物發達して遂に當末期成れるなり。

三二、御草子伽

- 3. 文體 謡曲と同じく韻文的散文にて流暢五七の調になれる處多し全章雅文なれど當時の語も混和す。

- 4. ……此書の影響は徳川時代の戯曲小説に及ぶ馬琴の五七句調はこれに出でたるなり。

- 5. ……此書の校訂したるものは島山健今泉定介合著の新編御草子よし。

三四、紀行類

1. 概して前期より劣れ、猶見るべきもの數種を擧ぐ。
2. 僧宗久著都の菴、觀應の頃諸國の名所を巡りて東へ下り再都に上れる紀行なり。
3. 今川了俊著道ゆきふり、京を立ちて山陽道を歷赤間關に至れる記なり。
4. 北條氏康著武藏野紀行、武藏野をへめぐれる道の記なり。
1. 概して古體の摸倣更に機軸を出さず今數種を擧ぐ。
2. 一條兼良著鴉鷺合戰物語…鴉と鷺とが合戰せる作り物語なり。
3. 作者不明の魚類合戰物語…2に倣ひて魚類の合戰をかけるふり。
4. 作者不明の常盤廻物語…廻が老を悲み淨土に往生せばやま念佛を凝し素體を遂げたりといへる物語なり。
5. 作者不明の鳥部山物語…民部卿といへる法師都に上り藤の辨の容色に迷ひて病みしが終に契を結びたりとの筋なり。
6. 作者不明の松帆物語…侍從君と宰相君とがたらし居たりしに宰相事にて漢路に流されし侍從慕ひて彼島に渡りたるに君は既に其島松帆の浦にみま

三五、物各語種

（かれるを聞き尼さなれりとなり。

1. 鎌倉時代より一層下りて見るに足らず。

2. 歌道傳授 ○堺傳授 東常棟—宗祇—宗長—肖柏 堺人
○二條家傳 ……宗祇—實隆—幽齋

3. 歌人の主なる者…一條兼良、同冬良、三條西實隆、北條氏康、毛利元就、太田道灌、細川幽齋等

4. 家集の主なる者…藤原政爲の碧玉集、後柏原帝の柏玉集、三條西實澄の雪玉集、太田道灌の墓景集、東常棟の常棟集。

1. 此時代に最價值あるは是なり其名はやく金葉集に見ゆ鎌倉にも行はれしが當代最盛なり。

2. 沿革 一、鎌倉正和年中僧善阿弟子救濟、これを興す。二、救濟の弟子二條良基に至りて勢力あり菟玖波集を作りて勅撰に准ぜらる。三、次で心敬のさとめごと花本宗祇の新菟玖波集出で一新せられ。四、山崎宗鑑、犬苑、玖波を公にすこは滑稽入りて俳諧體の連歌といはるされど最平民的なり。

三六、歌

三七、連歌

2. 沿革

三六、發句

- 3. ……詩の聯句に倣へるなり聯句は全篇一大長篇さなれど連歌は其句の前後のみ連絡して百二百連ぬるも一篇さならぬは惜むべし。
- 4. ……歌の法式嚴なる反動より發達せるなり故に其連歌最盛期は勅撰絶えたる時連歌の始の第一句を發句と云ふこの發句十七字のみにて獨立の韻文さなる即俳句なり。
- 2. 沿革 新菟玖波集時代には未獨立せず、大菟玖波集以後遂に成立するに至れるなり。
- 3. ……連歌俳句の歴史を明にせるは佐々政一の連俳小史なり参考すべし。

第五編 江戸幕府時代

- 1. ……室町時代の準備によりて天下泰平の結果成れるなり謡曲は淨瑠璃、御伽草子は小説の根源をなす如し。

一、總説

- 2. ……足利は士庶の無學にて瓦解したれば徳川幕府はこれを獎勵したりこれ文學の勃興起因。
- 3. ……初保窩を用ひ宋儒の學を以て倫理を明にすこゝを以て此の時代の文學は儒教の精神にて終始す。
- 4. ……幕府國史律令經子等所謂官版をばじめ種々活字版にて印刷し學問を鼓舞す封建なれば學者に身を立てれば上流に齒ひし得ざりしこゝこれこの期隆盛發達の一因。
- 6. ……五代將軍昌平學校を建て各藩皆之に倣うて忠孝の途を講ず。
- 7. ……此期の特色…あらゆる階級に文學普及したるとなり故に文學の種類頗多し。此期の弊…封建にて身分に階級あれば文學にも上流下流の分界立ちて相別
- 8. ……かれしこゝなり
 - 一、上流…保守的復古派活氣なし。
 - 二、下流…進取的最新派創作に走り濫猥に流る。
- 9. ……此期の區分
 - 一、徳川前期…京都大阪中心時代にて幕府創立より元祿末まで凡百年間
 - 二、徳川後期…江戸中心時代にて享保より王政維新迄凡百五十年間

一、徳川前期

- 1. 以前は儒學も僧の手にあり此人亦僧にて佛を修めしが後之を排斥して儒を以て貫く。
- 2. 儒教の我思想界を支配したるは國民の思想が現實的實際的なるに適合したればなり。
- 3. 惺窩は歌の家冷泉の末裔なり家康に信任せられしが老いて門人林信勝を進めて京都北郊に隱る元和五年歿年五十七。
- 4. 當時朝廷にても後陽成後水尾後光明帝代々學問を好み給ふ、後光明帝は惺窩の文集に勅序を下さる。
- 5. 門人…那波活所、菅玄洞、堀杏庵、三宅七羊、松永遐年、石川丈山等有名なり。
- 1. 羅山名は信勝道春といふ幕府に仕ふ明暦三年没年七十五。
- 2. 朱子學此人によりて幕府に用ひられ官學となりて全國に普及す。
- 3. 博覽強記…和漢の學に通ず著書百七十餘種。

三、林羅山

二、藤原惺窩

- 4. 子鳳峯、孫鳳岡等よく衣鉢を繼ぎて世々大學頭となり幕府と終始す。
- 1. 道春第三子名は恕、春齊、春勝ともいふ十五の時父に従ひ江戸に出づ多識を以て家光に愛せらる延寶八年歿年六十三。
- 2. 幕命を奉じ本朝通鑑二七三卷を撰す神武帝より後陽成帝まで文學上の價値少なからず。
- 3. 詩文を善くす著書猶多し。
- 1. 近江聖人と稱せらる名は與右衛門默軒と號す慶安元年没す年四十一。
- 2. 此人始朱子學を奉ぜしが後王陽明の學説を信じて知行合一を唱へ德行にて人を率ゐる實に陽明學派の祖に始まる。
- 3. 門人…熊澤蕃山あり經世實務を以て鳴る。
- 1. もと京都妙心寺の僧、天和二年没年六十八。
- 2. 野中兼山に私淑し朱子學に始まり垂加流の神道を唱導す其學派一時盛なり
- 1. 京都に塾を開きて終身仕はず寶永二年歿年七十九。

四、林鷲峯

五、中江藤樹

六、山崎闇齋

七、伊藤仁齋

2. 朱學王學は後世の學問にて老佛交り儒教の本色にあらず學問は遠く古に遡らざるべからずさて古學派を開くこれ宋學廣く行はれし一の反動なり。

3. 子東涯等衣鉢をつぐ東涯に輻軒小錄、乘燭談、名物六帖、制度通等の著あり

1. 荻生氏護園と號す博識洽聞江戸に教授す享保十三年歿年六十三。

八、物徂徠

2. 當時復古の氣運漸く盛なれば明の李于鱗、王世貞等の古文辭を唱導して復古學派を創む。

3. 當時の儒學は皆國文國語に通ずこの人になるべしの著あり語學の識顯はる

4. 門人…太宰春臺に經濟錄、獨語の著あり。

九、木下順庵

1. 松永退年の門人江戸に塾を開く元祿十一年没す年七十八。

2. 學朱子を奉ずれど一風木門の特色あり。

3. 門人…有名なるは新井白石、室鳩巢、山森芳洲等。

1. 光圀賞威の身を以て儒學を好み彰考館を開き明より逃れ來れる朱舜水を客として獎勵したれば益儒教盛となり。

一〇、當時儒學

2. 百家一時に起り政治經濟に其學才を用ひたれば一層の隆盛を來たす。

3. 節義を尚び道德を重んじ世を固めたり。

1. 玄旨法印の門人玄旨は細川藤孝、幽齋と號し慶長十五年七十七にて没す古令傳授を受けたる古風の歌人あり、貞徳當時の碩學を以て自任門人を教ふ承應二年没年八十三。

二、貞松 德永

2. 國學の發達は儒學に遅くる幽齋、貞徳、季吟を経て徐々に進むなり。

3. 歌俳諧に巧なり 其歌の門人に望月長好、加藤盤齋等俳諧には野々口立圃、

安原貞室、北村季吟、鷄冠井令徳、山本西武、高瀬梅盛、松江維舟等あり。

4. 著書…歌林檎樸、和句解、淀川、油粕、御傘、紅梅千句。

三、北村 季吟

1. 元祿二年幕府に召されて十三年法印歌學所に進み國學博士と稱す寶永二年没す年八十八其子湖春、孫湖元、曾孫春水、玄孫季、春玄々孫季文等家學を繼ぐ。

2. 其事業たる註釋…國文の古註を集めて大成したる學界への貢獻は偉大也

三、新白石

- 3. ... 門人に芭蕉あり。
- 4. ... 所著有名なるもの源氏物語湖月抄、枕草子春曙抄、徒然草文段抄、八代集抄、
- 1. ... 君美、通稱勘解由、幕府の儒臣從五位下筑後守享保十年没す年六十九。
- 2. ... 其學和漢洋に亘れるのみならず政治家として其敏腕を振ふ。
- 3. ... 所著の有名なるは讀史餘論、藩翰譜、折焚く柴記。

四、室鳩巢

- 1. ... 直清、通稱新助、順庵の門下、白石の推舉にて幕府に仕へ吉宗に優遇せらる享保十九年没年七十七。
- 2. 所著... 駿臺雜話、鳩巢小説。

五、益軒原

- 1. ... 篤信、福岡藩に仕ふ正徳四年没年八十五。
- 2. ... 朱子學者なれども最教育の學に力を用ひたり隨て漢文をかゝす漢字交りの平易なる文章にて所著を成す。
- 3. ... 其所著が通俗を開發したる功いふべからず。

六、茂戸睡田

- 4. ... 有名なるは大和俗訓、家道訓、五常訓、養生訓、大和本草、花譜、菜譜、京巡、大和巡、木曾路記、日本釋名等。
- 1. ... 江戸人、名恭光、梨本庵と云ふ寶永三年没年七十三。
- 2. ... 秘事口傳を賣ふ鎌倉以後の狭き學問は不用なり漢學に古學起る國學亦復古せざるべけむや其著梨本集(元祿十二年出版)に歌學の復古を絶叫すこれ斯道の曉鐘。

七、下河邊長流

- 1. ... 大和人中年より大阪に移る名は具平、通稱彦六、漢學ありて氣品高し一生妻なく讀書に耽る貞享三年没年六十三。
- 2. ... 契沖に深く交を結びて萬葉集を研究す光圀に知られて其解釋を乞はれしも成らずして歿す。
- 3. 所著... 晩花集、萍水歌集、萬葉名寄、林葉累塵抄、枕詞燭明抄、
- 1. ... 尼崎藩士下河元全の子十三、出家して佛教に深く大阪圓珠庵に住む元祿十四年没年六十二。

一八、僧契沖

2. ……光圀に聘せられたれど應せず長流に代りて萬葉集代匠記を作りて奉る。
 3. ……音韻學に深ければ當時の假名遣の誤を正し舊説に泥まず自由の新研究を始む。

4. ……長流と共に國文學復古派の首魁。

5. 所著

勢語臆斷、源註拾遺、厚顔抄、百人一首改觀抄、河社、和字正濫要略、圓珠庵雜記、漫吟集。

一九、東荷滿田

1. ……伏見稻荷神官、幕府湯島に聖堂を作れる時代なれば國學の學校を京都東山に建てむと將軍に請ひし學者なり元文元年没年六十八。

2. ……吉宗の爲に古書の眞偽を考證す一生戀歌を詠ます。

3. 所著…萬葉集、童蒙抄、春葉集。

4. ……其養子に滿家學を繼ぐ歌に巧なり。

1. ……漢學隆盛に隨て起る支那崇拜の弊を矯めて所謂水戸學派を起したり。

2. ……修史の事業と共に國文學の勃興に力を盡す。

二〇、徳園川

3. ……其監修の下に成りし萬卷の書は皆、直接間接に國文學界に資す。

1. ……元祿復古改新の氣運は活動して暫くも止まず俳諧も芭蕉に依りて一大刷新せらる。

2. ……伊賀藤堂家臣名は宗房、號桃青、主人良忠蟬吟と共に俳諧を修めしが君天せし爲世を捨て、京に出て季吟に就く先是大阪に西山宗因檀林風を始め滑稽輕妙を旨とす芭蕉之を嫌ひて詩歌の精神を十七字に込めたる正風體を創め身は全國周遊を事とす元祿七年没年五十二。

3. ……正風體俳諧は檀林の反動のみならず和歌に對する反動なり即歌の窮屈を脱して檀林の自由を取りて卑俗の辭も捨てず師傳に拘泥せずして理想氣骨なき當時の和歌を救へるなり。

4. ……正風は寂寞枯淡なる禪味を帯びて厭世的なり芭蕉は鎌倉時代の人格を有す詩歌を好み特に唐杜甫詩集、西行山家集を愛し其風骨を學ぶ翁の理想見るべし。

二一、芭松蕉尾

6. 俳文の一體を興す脱俗一種の滑稽加はる俳諧の想と文とにて成れるなりてはをはを非常に省く簡潔。

7. 所著…猿蓑集、幽蘭集、一葉集、俳諧七部集、貝おほひ、芭蕉翁一代集等、

8. 門人榎本其角、服部嵐雪、森川許六、向井去來、立花北枝、河合曾良、志田野坡、内藤丈草、各務支考、越智越人等甚多く世を風靡す。

江月座——其角
雪門——嵐雪——江月風

9. 歿後正風分裂
美濃派——支考
伊勢派——涼菟——上方風

1. 檀林派宗因の門人二万翁松壽軒といふ浮世草子を以て鳴れり元祿六年没年五十二。

2. 小説の方面は最初古書の反刻支那書の意譯出版等ありしが京都の淺井了意(元祿四年没)御伽婢子、浮世草子、物語を著したりこれに續けるはこの人。

3. 俳文を利用して小説を書く即てはをはを省きて續けらるる限り續くる又一種の妙味ありて千變萬化人をして應接に道無からしむてはをはを省くは新古今謡曲にも見ゆ文學の變遷は由來久し。

4. 其著主に好色本なり浄瑠璃も作りたれど發達せず。

5. 所著 一代男、二代女、五人女、世間胸算用、俗つれく、武道傳來記、日本永代藏。

三、西井 鶴原

1. 戯曲浄瑠璃は織田以前より有りさいへ普通小野阿通浄瑠璃十二段草子を祖とす元祿に至りて近松一革新す。

2. 長州の人肥前唐津にて僧たりしも還俗して京に出で大阪に移りて身を文筆に委す享保九年没年七十二。

3. 當時竹本義太夫といふ語手の高名あり、これがために作したるなり。

一、時代物 1. 材料多く謡曲の一轉、謡曲の主要は佛教なるに、これに儒教其骨髄たり。

三、近松門
左衛門

4. 其作の
二大別

二、世話物

- 1. 源平物多し出世景清、曾我會稽山、多く若き時の作。材料匹夫婦の愛情社會の狀態、道義と人情との争を示したるなり、當時の人心に適す。
- 2. 文學の價值時代物に數倍す。
- 3. 晩年觀察眼鋭くなれる後の作。

5. ……世話物は西洋の悲劇に匹敵す。

6. 文章

一、てはをはを省く、二、音節に合はすことを注意す、三、俗語を導きて古今雅俗を調和したるは非凡と云ふべし。

7. 有名なる
曲

國性命合戦、賴朝七騎落、雪女五枚羽子板、廻山姥、百日曾我、曾根崎心中、天網嶋、槍權三重帷子、女殺油地獄、心中重井筒、冥途飛脚、

8. 註釋

山田美妙齋著評註日本淨瑠璃叢書、難波土産、其發達をかけるは寺山星川著淨瑠璃史、齋藤月吟著聲曲類纂。

1. ……近松に次で夥しく其作者輩出したれど皆其上に出づること能はず今數名を

次に出す。

2. 竹田雲

一、近松の門下千前軒と云ふ師の歿後竹本座のため戯曲を作る。
二、所著…假名手本忠臣蔵、義經千本櫻、菅原傳授鑑。

3. 近松半二

一、出雲の門下天明初淨瑠璃の衰運に向ひたるを恢復したり。
所著…妹背山婦女庭訓、關取千両幟、近江源氏先陣館、忠臣講釋、奥州安達原、本朝二十四孝。

4. 紀海音

一、契沖に就き和學を修め近松と共に行はれたる人なり。
二、所著八百屋お七歌祭文、阪上田村鷹、末廣十二段、義經新高館。

5. 西澤鳳

一、海音と同じく大阪人にて同時代に出づ。
二、所著…建仁寺橋供養、本朝檀特山、北條時頼記。

6. 松田文耕堂

一、出雲等と同時の大阪の人。
二、大塔宮囃鏡、御所櫻堀河夜討。

二、戲作
者曲

2. 竹田雲

一、近松の門下千前軒と云ふ師の歿後竹本座のため戯曲を作る。
二、所著…假名手本忠臣蔵、義經千本櫻、菅原傳授鑑。

3. 近松半二

一、出雲の門下天明初淨瑠璃の衰運に向ひたるを恢復したり。
所著…妹背山婦女庭訓、關取千両幟、近江源氏先陣館、忠臣講釋、奥州安達原、本朝二十四孝。

4. 紀海音

一、契沖に就き和學を修め近松と共に行はれたる人なり。
二、所著八百屋お七歌祭文、阪上田村鷹、末廣十二段、義經新高館。

5. 西澤鳳

一、海音と同じく大阪人にて同時代に出づ。
二、所著…建仁寺橋供養、本朝檀特山、北條時頼記。

6. 松田文耕堂

一、出雲等と同時の大阪の人。
二、大塔宮囃鏡、御所櫻堀河夜討。

二五、草浮子世

- 1. ……西鶴物と八文字屋本とを浮世草子と云ふ。
- 2. ……西鶴に續ぎて其風を學び好色本を書けるは江島其碩、安藤自笑なり合著にて八文字屋本と云ふ世に行はる。
- 3. ……安藤自笑(寛保二二年没年八十一)は書肆なり江島其碩は(元文元年没年七十)專筆を取れるも合著とするを疾み分離して單獨出版せしが成効せず自笑は多田南嶺に代筆せしめて益盛に行はる寛延三年南嶺没年五十三)として衰へ文壇の中心江戸に移る。

二、徳川後期

- 1. ……真淵の江戸に出しは文壇の中心江戸に移るを暗示したるものなり。
- 2. ……駿河人、荷田春滿に學び寛保三年江戸に出て後田安家に聘せられ明和六年没年七十三。

二六、眞賀淵茂

- 3. ……古書を研究し註釋を作り語學を創め大に古道を興し歌文とも萬葉に復へして古調を尊ぶ門下多士赫々の勢あり。
- 4. 門人 村田春海、橋千陰、本居宣長、楳取魚彦、加藤字万伎、荒木田久老、林諸島、内山眞龍等。
- 5. 著作 萬葉考、冠辭考、歌意考、語意考、初學、源氏物語新釋、古今集打聽、岡部日記等悉しくは眞淵全集を見よ。

1. ……春道子漢學に造詣深ければ眞淵に學ぶも道は孔孟を主張せり文化八年没年六十六。

二七、春村海田

- 2. 文章 唐宋の古文を國文に應用したれば其妙絶いふべからず當時第一流に位す。
- 3. 其歌 ……古今集を標準とす眞淵より少し下れり。
- 4. 門人 ……清水濱臣、岸本弓絃、高田與清等有名各、著述あり。
- 5. 著作 ……歌がたり、和學大觀、琴後集。

二八、橘千蔭

- 1. ……枝直の子眞淵の高足なり歌文に有名なり文化五年没年七十二。
- 2. ……父は眞淵の友其歌高調古に依らず今に倣はず一種の風致あり天明五年没年九十四歌集の東歌あり。
- 3. 門人…大石千引、加茂季鷹等、
- 4. 著 作…萬葉集略解、うけらが花等、

二九、宣本長居

- 1. ……伊勢人二十六七歳頃契沖眞淵の著書を読みて古學に志し眞淵の弟子となり愈研究上京の翌享和元年没年七十。
- 2. ……其研究秩序的、音韻語學文學國史に至らざるなし該博近世の國語は此人の大成なり。
- 3. ……古事記解釋は師命にて三十五年を費す結果、古事記傳四十四卷。
- 4. ……其文章は平易流暢、歌は新古今集を標準とす。
- 5. ……當時の公卿等は舊思想にて人に下らざりしも此人には教を受く是學問地下に移れるあり。

三〇、伴信友

- 6. 門人 有名なるは横井千秋、鈴木朗、植松有信、藤井高尙、田中大秀、長瀬眞幸、僧春登、夏目養鷹、齋藤彦鷹、城戸千楯等。
- 7. ……實子春庭は語學に力を盡し詞八衢、詞通路を著はす、學統は養子太平繼ぐ博覽、其養子内遠、其子豊頼現に東宮侍講たり。
- 8. 著作 萬葉集玉小琴、古今集遠鏡、歷朝詔詞解、詞玉緒、字音假字用格、石上私淑言、玉勝間、鈴屋集等悉くは本居全集を見よ。
- 2. 著作…假字本末、高橋氏文考、神社私考、大刀契考、蕃神論、

三一、平胤田

- 1. ……當時の國學は精神上に及ぼしたる影響大なり朝廷の式微を慨し外敵侮るべからざるを疾呼する寛政三奇士を出せり、初漢學復古に激し斯學者の卑屈心に抗して起れる國學は發達して外國に對抗し幕府の根底を危うす。篤胤亦此奮闘の人神道發揮に勉む天保十四年没年六十八。
- 2. 著作…古史徵、神字日文傳、鑑眞柱、古事本辭經、

三、小庵澤

1. 歌の家冷泉の門下にて出藍の人なり歌道も亦地下に移る宣長と同時代享和元年没年七十九。

2. 當時伴蒿蹊、僧澄月、僧慈延と共に四天王といはる其歌高雅。

3. 著 作…六帖詠藻、蘆かび、

1. 歌文に巧なり文化三年没年七十四。

三、伴蒿蹊

2. 著 作…近世崎人傳、閑田文章、閑田耕筆、次筆、國文世々の跡、

1. 因州鳥取人京に出て、香川家を繼ぐ和歌革新の大家天保十四年没年七十四

2. 眞淵一派の古代に僻するを嘲り新學異見を公にす。

3. 歌の革新…詞は新しきを取りて調を高くすべしと唱へて一新派を開く。

三、香樹川

4. 其 歌 高調古今集を標準とす明治の歌界は少數の新派を除きて皆其歌風に倣ふ者なり、

5. 門 人 熊谷直好、木下幸文、渡忠秋、八田知紀、知紀の門人高崎正風は現今の御歌所長。

6. 著 作…古今集正義、中空日記、土佐日記創見、桂園一枝、

1. 國學復古歌人が古語にて形も想も舊きを練る反動として發達し滑稽を主とす

2. 徳川文學は概して樂天的性質を有すこれは其頂點なり。

3. 狂歌は句調よりすれば後世の歌に非らずして成るべく古歌の形を襲ひて諧謔の意を寓す蓋國學隆盛の一變物。

4. 遠く貞徳の淀川 油粕に其要素を認む。

5. 四方赤良、宿屋飯盛等の太平遊民の大々の發達をなせるなり。

6. 天明年間を最盛時となす江戸文壇爲に花麗、當時狂詩も盛に行はれぬ。

三、狂文狂歌發達

1. 太田蜀山人の狂名、學和漢を極む文政六年没年七十四。

2. 狂歌狂文の妙を盡す其著に千紫万紅、萬紫千紅、四方のあか、四方の留粕、等あり、

3. 其 著…淨世繪類考は有益なる考證なり。

三、赤四良方

三七、飯宿

盛屋

4. ……當時狂文狂歌に巧なるもの

朱樂菅江、鹿部部眞頼、紀定丸、平秩東作、森羅萬象、橋庵田鶴丸、加茂季鷹等。

1. ……石川雅望の狂名、これ亦和學に深し天保元年七十八にて歿す。

2. ……狂文狂歌の巧は赤良に亞ぐ其著狂歌百人一首、萬代狂歌集等、

3. ……國學の著には雅言集覽、都の手振、北里十二時、源註餘滴等、

1. ……芭蕉歿后正風は天下を風靡したれど腐水は虫を生ずる如く亦見るべきなしこれを憤りて起ちて一新派を開けるは此人、攝津に生まる齒を善くせり天明三年歿年六十八。

2. 其俳句…主觀を離れたる諧の如きものを詠む清新勁強。

3. ……其歿後は芭蕉後の如くに行はれず、これ文化文政以後は俳諧の世ならんばなり。

4. 所著…蕪村句集。

1. ……一種の平民文學にて安永天明頃より始まる。

三八、蕪谷

村口

三九、川

柳

2. ……俳句より出でたる狂句にて其形式は同じ。

3. ……滑稽の點は狂歌と同性質なり。

4. ……諷刺を寓すまことして社會の出來事を材料に採る。

5. ……其妙は最深刻に穿てるものを云ふ。

6. ……江戸の人柄井川柳これを創む柳樽の著あり川柳は寛政二年に没す其第二世第三世跡を繼ぐ。

1. ……大阪にて八文字屋本盛に行はると頃の江戸は小説の萌芽たる子供用の赤本青本ののみなりしも安永天明後は漸く榮へて文化文政は江戸小説の眞盛を來たせり。

2. ……京傳、馬琴は其花を咲せたるものなり。

3. 當時のもの
一、端物 二、實録物 三、滑稽物
浮世草子、(四編、八文字屋本)洒落人情本、讀本、合巻物。

四〇、小説

参考

關根正直著小説史稿、雙木園著戯曲小説通志、坪内逍遙水谷不倒著列傳體小説史、

四、源平内賀

- 1. ……真淵の門人狂名福内鬼外號風來山人又鳩溪天明二年没。
- 2. ……淨瑠璃を著はす神靈矢口渡、金毘羅利生記、嫩松葉相生源氏等、
- 3. ……滑稽小説をかゝこれ江戸小説の起り初め。

四、綾建足部

- 1. ……真淵の門人片歌を主張したり。
- 2. ……安永二年本朝水滸傳を出だす中古文体のものには西山物語あり。

四、秋上成田

- 1. ……加藤宇万伎門人真淵の孫弟子真淵の學の影響は源内綾足、秋成の如く小説にまで及ぼす其大なること見るべし秋成は文化六年七十八にて歿す。
- 2. ……中古文体なる雨月物語を出す。
- 1. ……通稱京屋傳藏、畫をも善くす畫には北尾政演といふ文化十三年没年三十六。當時の戯作者は大抵放蕩無頼なれば其作にも滑稽のもの多しこの人も初は其類なりき。

四、京山傳東

- 3. ……寛政三年松平越中守の大改革によりて其洒落本禁ぜられ罰を蒙る。

- 4. ……罰せられたる後は教訓を主として讀本を作る。

- 5. ……門人馬琴を故有りて絶交す。

- 6. ……其有名ものは皆晩年の作なり。

- 7. 著 作 ……忠義水滸傳、櫻姫全傳曙草紙、昔語稻妻表紙、本朝醉菩提、雙蝶記、名鎖吉江戸人父は松平信正の家宰、京傳の門下となり初は其代作をもなせり性傲慢博識を恃みて人にトラス嘉永元年没年八十二。

- 2. ……學儒老に通じ國文に明に歴史地理に深ければ其文の規模の大に且力あること他の作家の比にあらず泰斗といはるゝも宜なり。

- 3. ……支那小説の翻案得意なり八犬傳は水滸傳の翻案。

- 4. ……其作最初は草双紙なれど文化以後は讀本を専ら著はす其筆を取れること六十年間成れるもの數百種古今に類なき多作家なり。
- 5. ……元祿の近松門左衛門と相對して徳川文學の花なり。

四五、瀧馬澤琴

- 6. ……其小説中の人物は大抵正道を踏みて缺點なし近松の道義と情熱との衝突せる者は異なるも社會を寫せる點より見れば近松の方自然に近し。
- 7. ……幕府の政教主義を表彰して専ら仁義にて徹透す是猥褻小説行はるゝ反動。其作は必勸善懲惡教訓的のものなり之を以て貴族的文學平民的文學との幾分を調和する傾あり。
- 8. ……近松は男女の情死を始終匹夫匹婦の情死と爲すも馬琴は是に歴史的根據を有せしむ。
- 9. ……馬琴はお伽草子に材料を採るのみならず語調をも之に學べる迹多し。
- 10. ……馬琴の人生觀は厭世主義なり作に其迹を留む。
- 11. 著 八犬傳、弓張月、頼家阿闍梨怪風傳、俊寛僧部島物語、青砥藤網摸稔案、近世美少年錄、俠客傳、松染情史秋七草、昔語八丈綺談等、
- 12. 狂歌狂文狂句發達して此の滑稽小説となりしなり猥褻には落ちず。
- 2. ……安永年間に戀川春町あり高慢齋行脚日記をかゝりこれ先驅。

四六、滑稽説

- 3. ……三馬一九によりて其上乗書がれ徳川文學を飾るに足る。
- 4. 三式馬亭
 - 一、通稱菊池泰輔江戸人も書肆手代にて少年時代既に在來の小説を讀破す洒落本もかきしが其長ざるはこれなり文政五年没年四十八。
 - 二、所著…浮世床、浮世風呂、風來山人の系統を引けるものなり。
- 5. 十返舎九
 - 一、通稱重田貞一駿府人江戸に住す一生滑稽に過せり天保六年没年六十八。
 - 二、所著…東海道中膝栗毛、鎌倉の紀行文と雲泥の差あり。
- 6. ……瀧亭鯉丈、梅亭金鷲等これに亞ぐ。
- 1. ……洒落人情本の傑作は春水によりて出づ。
- 2. ……春水は三馬の門人三鷺亭と號す通稱佐々木貞高、江戸人、眇目。其著は人情の粹を盡す天保十三年没。
- 3. ……其材料を町人の男女に採り對話風に書く。

四七、洒落本

四八、合巻物

- 4. ……猥褻にて水野越前守に罰せらる。
- 5. 所著 梅曆、辰巳の園、(赤穂義士をかける以呂波文庫は得意のものに非らず)。
- 1. 合巻物 其繪草子五枚を以て一卷とし六巻を合せて上下二冊に綴じたる名なり、これにて有名なるを柳亭種彦とす。
- 2. ……種彦通稱高屋知久幕府に仕ふ多藝の人なり天保十三年没年六十。
- 3. 所著 修紫田舎源氏は著名なり源氏に擬し足代公方の榮華を寫したる者。

第六編 現代文學

1. ……政治上社會上の大變動に隨ひて思想界革新せられ文學の形式内容共に著しく變化す。

2. ……教育普及し専門の藝術研磨の學校勃興すれば其研究者年に加はりて各方面に活動す。

3. ……東西の文明混亂時代なりこれを同化融合せざれば完全なる帝國國民文學は成立せず、現に日に月にこれに向ひ進みつつあるなり。

4. ……現代の思潮は徳川時代既に潜む耶穌教の傳來と共に西洋思想は來りしなり、理學科學の如きは蘭語學者の手にて徐々に傳はりしなり。

5. ……現代文學は多方面に發展しつつあるなり前代に無き豐富有望のものなり。

6. ……現代文學の黄金時代は近き將來に現出せんとする氣運に際會す。

7. ……文學者及所著はこゝさらに省くこれ公平を失する觀を與ふる缺點に隔り易ければなり。

1. ……言論の機關にして文學の媒介者且發表者なり。

2. ……其濫觴は元治元年にあり年と共に發行愈盛にして完全に近づく。

3. ……印刷術の發達進歩は其刊行を愈容易ならしむ。

一、總

說

二、新

誌聞

三、俳句

- 4. ……各種各方面の文學盛に迅速に發表せらる。
- 5. ……明治の文體はこれに依りていつしか一定せらる。
- 1. ……いひ舊るされたる所謂宗匠流月並派のものに甘んぜずして新派起る即子規派これなり。
- 2. ……天明の蕪村を慕ひてしかも之に倣はず一新機軸を出だす。
- 3. ……其發展年と共に進みて完全に近づかむとす。

四、和歌

- 1. ……新思想の影響にて舊套を脱し新しき題目の下に歌はる。
- 2. ……復古派あり最新派あり各派亦數流に別れ各機關雜誌に割據して其雄を争ふ
- 3. ……修辭生硬ならざれば陳腐に屬する弊あり。
- 1. ……在來の短小なる詩形に満足せずして唱導せらる。
- 2. ……西洋の詩の長大複雑なる影響。
- 3. ……其語調は七五或は五七を採る。
- 4. ……音樂の發達はこれを進歩誘導するの争ふべからず。

五、新體詩

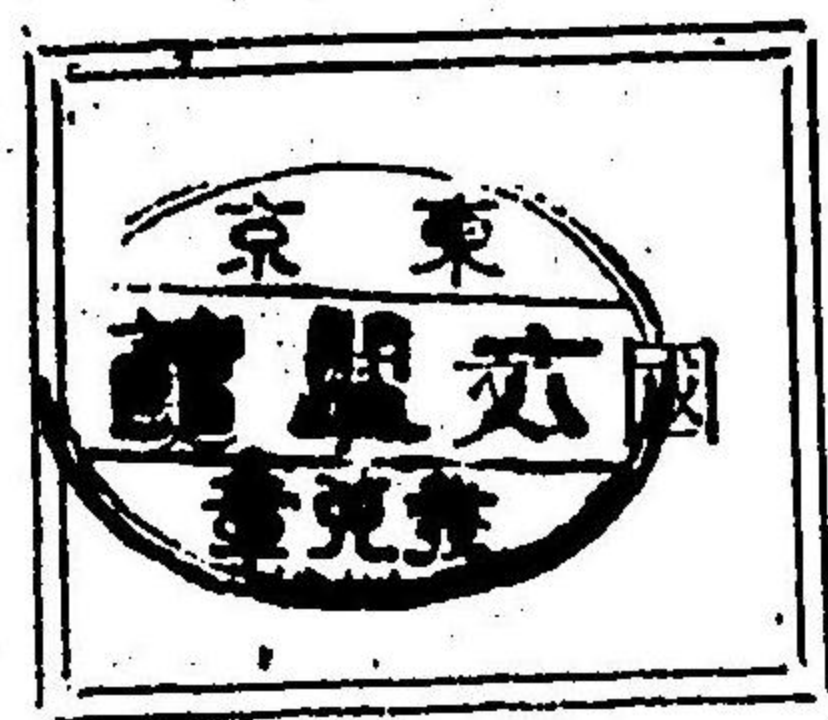
- 5. ……既に公にせられたる長篇雄作多し。

六、小説

- 1. ……西洋文學の翻譯翻案と共に創作の佳品多し。
- 2. ……新聞雜誌に欄を割きて之を歡迎するは進歩發達を資くる大なり。
- 3. ……寫實は前代のものに優るこゝ數等。
- 4. ……前代の勸懲主義は遺憾なく除かれて不自然の迹殆絶つ。
- 5. ……言文一致に意を注ぐ。
- 1. ……演劇改良の聲と共に脚本戯曲の新作出づ。
- 2. ……西洋劇の翻譯翻案も盛に行はる。
- 3. ……前代中葉より作者は地位低き者なりしも今は大文學者も自任するもの進みて筆を取るに到る。
- 4. ……語詞の音調に重きを置く傾向は最喜ぶべし。

七、戯曲脚本

國文學史表解終



刷行 印日五月七年九十三治明
發日十月七年九十三治明

錢五十金價定

製
複
製
不
許

者作著

穗芦島小

不
許

者行發

館盟六社會資合

地番三町砲鐵區橋本市京東

丸百七本杉者表代

地番三十町弓區橋京市京東

弘義本松者刷印

所賣販大

七	甚	黑	目	目丁二町馬傳南區橋京市京東
吉	友	原	榎	町砲鐵區橋本市京東
丸	百	七	本	目丁二町石本區橋本市京東
耶	十	黑	目	町ノ四表町岡長區滋新
耶	太	喜	澤	町枝櫻市野長區野長

所行發

地番三町砲鐵區橋本市京東

館盟六社會資合

番四六七二花浪話電

金女館町弓區橋京市京東所刷印

29/1/39

刊圖八月。

研 究 叢 書

理 科
 動物學 植物學 生理衛生 礦物學
 化學 生理學 物理學
 歷史地理
 日本地理 外國地理上 地文學
 日本史 東洋史 西洋史
 算術解法 代數學解法 幾何學解法
 三角術解法
 教育學
 教育史 教育學 教授法
 心理學
 心理學 心理學

最新目錄叢書
 速成算術 速成代數學 速成幾何學
 速成三角術 各册定價 金幣五錢 郵稅各金四錢

大正七年十月一日發行

▲逐次發行▲各册凡百五十頁以上

▲裝釘優美 小冊子形 各册定價 金幣五錢 郵稅各金四錢

普 通 學 表

各册定價金十五錢 郵稅二錢

礦物學 動物學 植物學
 生理衛生 物理學 化學
 日本史 日本史年表 東洋史年表 西洋史年表
 外國地理 英國地理 代數學 幾何學
 漢文 英文 算術 代數學 幾何學
 論理學 倫理學 教育學 心理學

實 業 學 表

各册定價金拾八錢 郵稅二錢
 商業通論 商業地理 肥料學 農業學 農作物與園藝

東京市日本橋區大馬路二丁目廿二番地

發行所 資合會 六盟館

高等商業學校教授 長谷川方文先生編纂

新 英 和 辭 林

全 書 冊

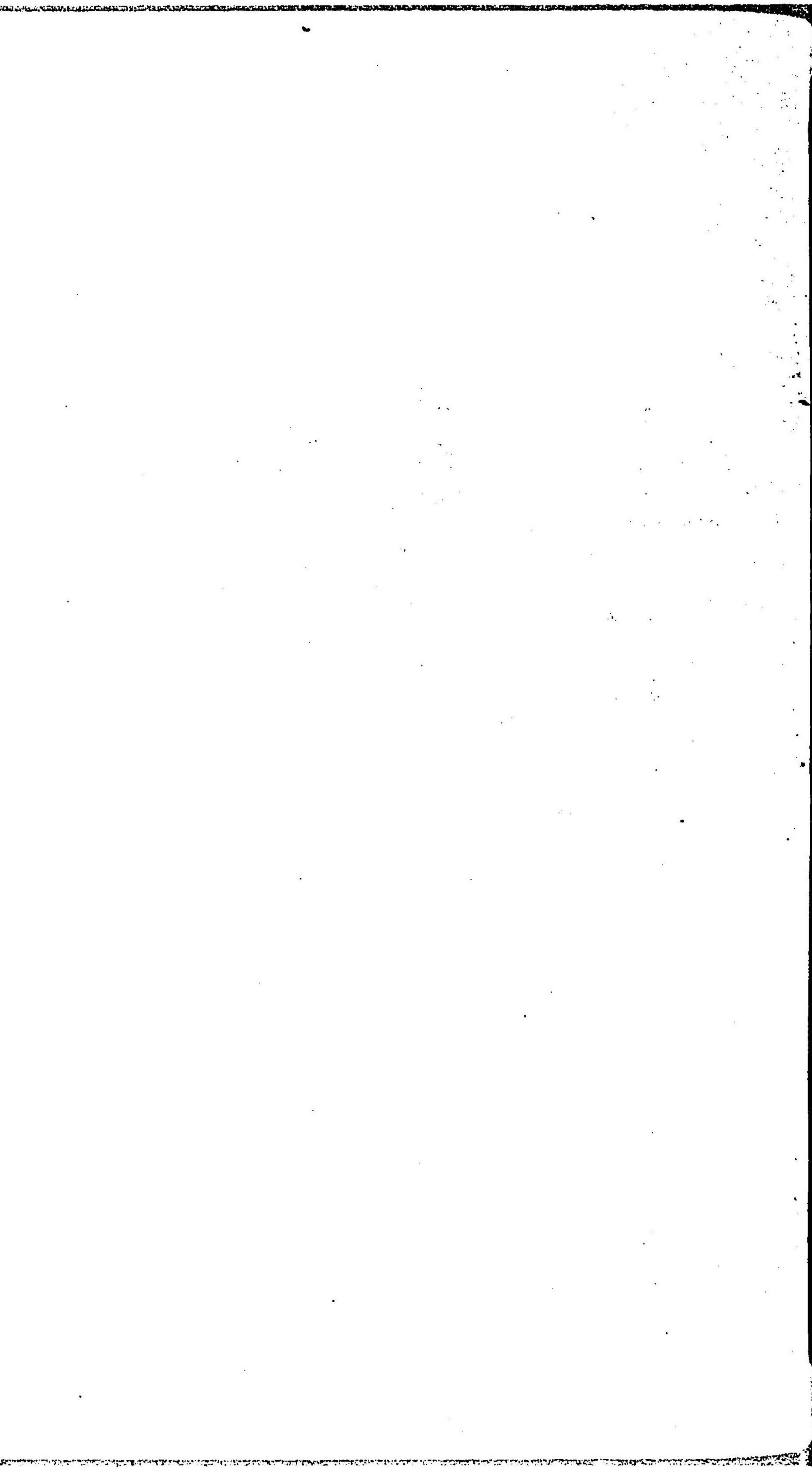
洋 裝 最 新 形

裝 訂 優 美 堅 牢

定價 金五十錢 特別減價金三十錢 郵税金六錢

本館に普通學表解書及研究書を發行し大に諸君の同情を得て既に數十萬部
を賣盡し益々好評を博して洛陽の紙價爲めに貢きを致し聊教育界に貢獻するを得
たり倂て當分の内特別減價金三十錢を以て學生諸君に必要有益なる本書を販賣し
感謝の意を表せんとす尙本書は編者實驗苦心の餘に成りたる實用的辭典にして平
易を主とし且英語として常用せる羅典、希臘、獨、佛等の文字は勿論熟語俗語を
も網羅したるものなれば英學研修者座右の寶典として頗る輕便なるものなり。

94
294



A small, rectangular, light-colored label or piece of paper is affixed to the dark vertical strip on the right side of the page. The label is oriented vertically and contains some faint, illegible markings or text.



084880-000-9

94-294

国文学史表解

小島 芦穂 / 著

M39

DBB-0054



